

EPA THE EIKO ALUMNI 86

2016年10月3日発行 ©2016 発行人:栄光学園同窓会・菱沼徹臣 編集人:高橋英治 印刷所:ナガシマ印刷工房
発行元:栄光学園同窓会 〒247-0071 鎌倉市玉縄4-1-1 ☎0467-44-8875 <http://www.eikoalumni.org>

新校舎建設工事

フィールド西側のバスケットボールコート付近に建設中の新校舎西棟は一足先に完工し学園側に引き渡しが行われました。西棟にもみられる木造の外壁や内装など、本校舎の完成が待ち遠しくなります。2017年3月の新校舎竣工においては同窓会としても学園側と調整してOBの方々へのお披露目の機会を得る予定です。



(西棟 体育館前より9月10日撮影)

2016年度同窓会定期総会の開催

2016年5月14日に定期総会が行われ、出席者は同窓会執行部を含め64名でした。予算報告や新任役員の承認、各部事業方針の承認に加え、会則改訂については活発な意見交換が行われました。9ページに議事録を掲載しております。

2016年度栄光祭

5月14日、15日に第69回栄光祭が行われました。新校舎工事中につき仮設校舎を使っでの催しとなりました。喫茶店アロマが聖堂ホールでの開催となり、OBの部屋アラムナイは仮設中学校舎の2階に設けられましたので、例年の場所に見当たらず、探してしまわれたOBの方もいらしたかも知れません。

追悼ミサの様子とあわせて8ページ、9ページに報告記事を掲載いたします。

栄光OBフォーラム@TOKYO 2016

2016年11月6日(日)、昨年に引き続き都内で開催します。会場はJR御茶ノ水駅から徒歩5分ほどの東京ガーデンパレスです。今回は若手起業家に登壇いただくパネルディスカッションの後、懇親パーティを行います。詳細案内は14ページをご覧ください。

会則改訂について

昨年度来、検討を行ってきました同窓会会則の改定案は2016年度総会の議事において承認されました。引き続き細則の見直しも行っておりますが、本号には改訂されました同窓会会則を掲載いたします。特に支部関連委員、各期委員の方は会則に規定される委員の役割について、ご確認ください。

主な目次 No.86		EACONを使おう(5)	P.21
学園70周年記念事業 新校舎建設状況写真	P.2	母校の様子	P.22
同窓会会長ご挨拶	P.6	恩師のこと	P.24
同窓会行事報告・案内	P.8	OB便り	P.28
2016年度同窓会定期総会報告	P.9	同期の活動	P.34
栄光OBフォーラム@TOKYO2016案内	P.14	支部等の活動	P.38
同窓会会則改訂について	P.17	歴史文学散歩	P.41

学園70周年記念事業 新校舎西棟が完成！

⇒関連記事: 同窓会長ご挨拶



南西側から見た西棟



陸上トラック下から見た西棟

完成した新校舎西棟
南側のテニスコートから見る。
左は仮設校舎



第一体育館の上の道路から見た西棟
奥は仮設校舎、正面奥は野球グラウンド、右は第二体育館



大講堂のバルコニーから見た
新校舎南棟



修道院への坂から見た南棟
(左)と北棟(右の囲いの中)



校舎へ入る屋外階段(中央)
右は複合校舎



正門から見た新校舎



仮設校舎の栄光祭（2016年5月16日）

同窓会会長 菱沼徹臣（17期）

日頃の皆様からの同窓会活動へのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。また、母校70周年記念事業である新校舎建築の大プロジェクトに対し、数多くの卒業生から多額のご寄付を賜り誠にありがとうございます。

この8月には西棟がはやくも完成、来年3月予定の全棟竣工へ向けて工事は順調に進んでいると聞いています。そのような状況において、同窓会としては8月末現在で全卒業生約10,000名中2,049名の方から延べ2,449口のご寄付を賜り、累計額は1億68百万円を超えています。この金額は50周年事業の際の最終金額と等しく、来年の12月末の寄付締め切りまでの同窓会としての最終目標2億円に対し、順当に積み上がっていると思っております。感謝に堪えないとともに、ここからは卒業生の皆様の2度目、3度目と上乗せしていただくご寄付が頼りとなります。どうぞよろしく願いいたします。

一方、寄付の全体目標額である5億円に対しては、8月末現在2億8千万円とまだまだ不足しております。特に栄光会での進捗が芳しくなく、募金委員会に於いては更なる情宣とお願いを強めるとともに、後援会や同窓会へも目標を超えての積み増しを要請することとしています。同窓生の皆様にはこのような諸事情をご理解いただくとともに、税制優遇や法人よりの寄付なども再度ご検討いただき、是非とも追加のご協力を賜わらんことを切に願います。次第です。

同窓会では、来年の母校創立70周年を見据え、また募金活動を盛上げるためにも、各種イベントの展開を企画していきます。多数お集まりいただいたオールEIKOゴルフコンペや本年11月6日に開催予定の栄光OBフォーラム@TOKYO2016を皮切りに、来年3月の新校舎お披露目から始まる一連の新校舎見学の機会提供、同8月6日に予定するみなとみらい大ホールでの記念コンサートと祝賀パーティなどを、主催または共催イベントとして鋭意企画中です。皆様には各イベントに奮ってご参加いただき、記念事業の盛上げにご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

5月の総会において同窓会会則の大幅な改定をご承認いただきました。「血の通う同窓会」を目指し、同期会や支部の活動を更に活性化すべく、新会則に基づき具体的に手を打ってまいります。また、会費納入率の引き上げ、会員データベースの管理と名簿印刷の今後、EACONの普及停滞とこれからのSNS利活用のあり方など、永年懸案のテーマにも今期は果敢に挑戦して議論を深めていく所存です。卒業生の皆様には、今まで以上の関心を同窓会にお寄せいただき、積極的に参画されますことを望んでおります。重ねてよろしく願いいたします。

総務部より

総務部長 青木嘉光（10期）

総務部より2016年度総務部事業計画の第一「会員名簿の今後のあり方の検討」について、現在の進捗状況をご報告申し上げます。

まず、8月20日の常任委員会において、「会員名簿検討」作業遂行のため、次の通り特別委員会を設置することを御承認頂いた。

① 呼称:「同窓会名簿検討特別委員会」

② 特別委員会メンバー:

事業部長、財務部長、広報部長、活動サポート部長、幹事(中村稔、米村俊彦)

この他に会長、副会長。事務局長は随時出席、取り纏めは総務部長。

③ 目的:

栄光学園同窓会会員名簿について、今後どのような形にしていくのがよいか、そのあり方を、媒体、関連法規、費用など全般的に幅広く議論し方向性を纏めることを目的とする。

③ 活動スケジュール:

特別委員会の設置承認後、原則毎月会合を開き、昨年度実施のアンケート調査での会員の名簿に関する意見の見直し、EACONの名簿機能の検証、各種対策の費用面の検討などの議題を順次議論。12月常任委員会に経過を報告し「名簿の今後の方向について」ご意見を頂き、更に議論を深め、2017年2月、4月の常任委員会の審議を経て本年度中に今後の方向性を纏める予定。

この「同窓会名簿検討特別委員会」は8月20日に、第1回の会合を開催。2014年12月～2015年1月に実施した、「会員全数調査(アンケート)」における、会員の名簿に関する意見の見直しを行った。既にご報告の通り、全数調査は調査対象会員8,582人に対し、回答者数は681人で回答率7.9%。うち、「設問〔7〕同窓会名簿はどんな時に、役に立っていますか」という質問に対し、395件(全調査対象者の4.6%、全回答者数の58.0%)の回答があった。その内、「役に立っている」という回答が279件(全調査対象者の3.2%、全回答者数の41.0%)、「役に立っていない」という回答が89件(全調査対象者の1.0%、全回答者数の13.1%)、「印刷型として再考を」という意見が27件(全調査対象者の0.3%、全回答者数の4.0%)であった。(次ページ集計表参照)

設問 〔7〕	同窓会名簿はどんな時に、役に立っていますか。	回答数	回答数/ 全会員数	回答数/ 全回答数	回答数/設 問回答数
			395	4.6%	58.0%
肯定的 回答	役に立てている。役に立ったことがある。こんな場合に。	279	3.2%	41.0%	70.6%
	役に立つなあ	6			
	同期生の消息を知りたい。同期会開催の連絡の時など	59			
	住所録として	66			
	物故者、安否確認	7			
	地域・職場で同窓生探し	20			
	栄光卒業生かどうかの確認	35			
	自己確認、自分のデータの確認など	9			
	眺めるだけ、暇つぶし	10			
	仕事、ビジネスのニーズ	21			
	卒業生の動向消息進路背景の確認、探索	41			
	医療機関・取引先探索	5			
	要改善	「印刷型名簿として再考を」	27	0.3%	4.0%
否定的 回答	内容別	10			
	情報が少ない、古い	17			
	名簿として、役に立たない	89	1.0%	13.1%	22.5%
	内容別	39			
	役立っていない	39			
	使っていない、見していない	41			
	無駄、無用、持っていない	9			

このように、同窓会名簿に関する設問に回答をされた会員のうち、41%が「役に立っている」と答えている事実はやはり重い。これは全同窓会員の3.2%に過ぎないという見方もあろうが、現在の名簿がどんな使われ方をして役に立っているのか、現実を正確に認識しておくことは、今後の方向性を議論する第一歩として重要であると考え、第1回会合の議題とした。

その他に、全数調査の自由記述には、名簿に関する要望、EACONに対する意見も寄せられており、これらについても見直しを行った。

設問 〔10-④〕	栄光学園同窓会について、どんな側面からでも何かご提案を (230提案のうち、名簿関連33件)	33
	名簿にあれこれ課題あり	11
	会員情報、会員データベースが不十分	11
	ホームページ、EACONの活用を	11
設問 〔6〕	EACONへの、ご意見、ご提案がありますか。	24
	使いづらい、使いきれない	8
	こんなふうに来るといい	5
	EACON充実利用拡大のために	11

最後に、会員の皆様をお願いします。

皆様の「会員名簿」の今後について、ご意見ある方は、どんなことでも構いません。メールでも、レターでも、事務局宛にお送りください。これからの「特別委員会」での議論の参考にさせていただきますと思います。

事業部より

事業部長 増木洋介 (30期)

学園創立70周年事業で建築している新校舎の竣工にあわせたイベント開催を予定しています。詳しくは追ってご案内しますので、是非ご参加ください。

・新校舎見学会(2017年3月20日(予定))

竣工直後の校舎内をご覧いただく機会をご用意させていただきます予定です。

・OBフォーラム@OFUNA(2017年春(予定))

設計に携わった方をお招きして、新校舎を詳しく解説していただく企画を予定しています。

・創立70周年記念コンサート(2017年8月6日(日))

13:30～ 横浜みなとみらいホール)

栄光フィルと栄光メサイア・ソサイエティをベースに編成される「創立70周年記念オーケストラ/合唱団」と、世界で活躍する栄光卒若手アーティスト3名が、お祝いにふさわしい演奏をお届けします。詳細のご案内およびチケット発売は、今年の冬を予定しています。ぜひご家族、ご友人とお出かけください。

・創立70周年記念パーティー(上記コンサート終了後 17:00～ 横浜ベイホテル東急)

コンサートの余韻に浸りつつ、ホール隣に位置するホテルに場所を変えて賑やかな懇親会を行います。ぜひご家族、ご友人同伴でご参加ください。もちろんパーティーからの参加もOKです。夏の夜にふさわしいスペシャルゲストも予定しています。

広報部より

広報部長 高橋英治 (28期)

2016年度広報部事業計画として、5月14日に開催されました2016年度総会の中で、会員間のコミュニケーションツールのひとつとして、フェイスブックなどのソーシャルネットワークシステムを活用する方策を述べております。

会報のEIKO ALUMNI、同窓会ホームページ、EACONといった現在の同窓会のメディアに対して、さらに別のツールを加えることには、全体計画の不備や将来ビジョンの不足との指摘を受けかねません。フェイスブックの活用を提案するに至った背景と、今後の作業予定についてご説明いたします。

会報のEIKO ALUMNIは年2回の発行を行っており、記事の内容のマンネリ化は避けなければならないと考えつつも、大きな目次の変更もなく学園の話題、同期会や支部会の活動などを報告しております。会報の発行数は8000部ほどですので、同窓会からの一方的な連絡ですが、最多数の連絡が可能な手段として位置付けられます。

同窓会ホームページは、2000年にホームページ委員会が発足して同窓会ホームページの運営をスタートしました。

しかし、すでに本年度の総会で承認された会則の改訂された中で、同窓会広報部の事業のひとつと明記されております通り、ホームページ委員会に委託することなく、広報部が運営を行っております。ホームページの優位性は、その即応性にあり、直近の話題やイベントのご案内、あるいは訃報の掲載などに効力を発揮しております。定期的同窓会ホームページをご覧いただいている方はご存知の通り、創立70周年記念事業である新校舎の建設状況も会報より早く、カラー画像で、多数ご覧いただくこともできます。

いっぽうEACONは2014年度から運用が開始されており、ここにOB各位がプロフィールや連絡先を最新に維持することで、紙の名簿よりも精度の高い名簿情報が管理されることと、会員相互の連絡やり取りにも活用されることが期待されております。ところが、現状では各個人による情報の更新が進んでおらず、古い情報のままでは名簿情報の閲覧、会員検索などのメリットが薄く、また会員相互のコミュニケーションには使い勝手があまり良くないことが判ってきました。

そこで、会員相互のコミュニケーションを有効に活性化させるにあたり、フェイスブックというソーシャルネットワークシステムの利用を検討しはじめています。コミュニケーションツールとしてフェイスブックを使うことで、同窓会ホームページ閲覧を促進することもありますし、フェイスブックの同窓会グループへの登録認証にEACONを利用するなど、複数の同窓会メディアの活用向上にも寄与させたいと考えています。

このため、広報部ではEACONの現在の使われ方の実態把握と同窓会員の方々の希望、フェイスブック利用者の多寡などをアンケートにより確認する予定です。別途ご案内がありましたら、ご協力をお願いいたします。

同窓会行事報告・案内

OBの部屋“ALUMNI”

同窓会副会長 山田宏幸（30期）

平成28年5月14、15日の両日、第69回栄光祭が行われ、今年も同窓会ではHomecoming Dayとして“OBの部屋ALUMNI”を開催し、卒業生やご家族が母校でほっと一息、休憩の出来るスペースを提供しました。

例年と大きく異なるのは、栄光学園創立70周年事業新校舎建築に伴い、すでに旧校舎を取り壊し仮設校舎での学園生活となっていることから、栄光祭が仮設校舎と限られた校庭スペースで行われたということ。「OBの部屋は出来るのかなあ～」と若干不安を抱いておりましたが、学園の特段のお計らいで貴重なスペースをお借りすることが出来ました。OBの部屋は、例年は聖堂ホールで行っていましたが、今年は

‘アロマ’に同会場を譲り、仮設校舎の3階の一室で開催しました。

今回も毎年好評の“新宿さぼてん”の“かつサンド”やお茶菓子などを用意してOBの皆さんを迎えました。若いOBを中心に、例年通りの盛況ぶりで、また先生方や中高年OBの皆さんにも多数ご来場いただき、旧交を深めていただきました。



2016年度OBの部屋ALUMNI

ここ数年、個人的には仕事などで前日の会場設営に駆けつけることが難しく、前日の会場設営は今回も、同窓会事務局にお任せして無事完了。また当日の会場運営は、53期の川本さんや62期の岡田さん、川島さんなどの若手同窓会委員が中心となって行いました。

栄光祭当日の土曜日、日曜日とも好天に恵まれ、記帳した来場者数は306人（土曜140人、日曜166人）で、例年より若干少なかったものの、たくさんの方にお立ち寄りいただきました。会場には、過去の高1ゼミ一覧を掲示するなどして、同窓会の活動や現在の学園を紹介しました。また、学園創立70周年事業新校舎建築のイメージ動画を映し出し、OBの皆さんに新校舎のイメージを膨らませていただくとともに、少なからず募金活動への啓発にも繋げられたのではないかと考えています。いつもと会場が異なるうえに、仮設校舎の3Fということもあり、なかなか探し辛かったとは思いますが、ご来場いただきました皆さま、ありがとうございました。

さて、来年の栄光祭は、新校舎で行われることと思います。OBの部屋を開催することが出来るのか、また会場はどこなのか、今のところよく分からない状況です。しかし、毎年300人以上の若手を中心とした多くのOBが集う企画ですので、同窓会としては、是非とも来年度以降もOBの部屋を皆さんにご提供したいと考えています。

学園70周年という節目を迎え学び舎も新しくなり、このOBの部屋に限らず、同窓会活動全体についても、その活動の中心となる世代を少しずつ移行していくこととなります。OBの部屋“ALUMNI”は10年以上の歴史を有する定番事業であり、おかげさまで来場者も年々増え、記帳者は10年

前から1.5倍程になりました。さらなる発展を若手OBに託すべく、様々な工夫をしていきたいと思ひます。皆さま、ご意見などを同窓会事務局までお寄せください。

今年来場された方、特に、惜しくもかつサンドをゲットできなかった方は、是非とも来年もお越しください。また、今年、いらっしやれなかつた方、来年こそお越しください。会場は‘必ず’変わりますので、どうぞお気をつけて。お待ちしております。

同窓会追悼ミサの報告

大島弘尚（14期）



学園関係者の追悼ミサ

5月14日、学園聖堂にてこの1年間同窓会にお知らせのあつた学園関係者の追悼ミサを行ないました。学園前理事長萱場神父様と27期伊藤淳神

父様の共同司式により、ネパールでも活動された大木章次郎神父、46年間在職された国語科の阿部忠也先生、会計主任であられた鈴木和郎様、諸磯の臨海教室管理人であられた小池悟郎様の4人の教職員と1期生から45期生までの36人のご冥福をお祈りいたしました。共同祈願の先唱者として望月伸一郎校長先生、退職教職員の代表として16期山本洋三先生をはじめご遺族、同窓生約70名が参列いたしました。

ミサ後、参列者はアロイジオ会館ホールに移動し、同窓会の用意したお茶を飲みながら、故人を偲ぶ場を持つことができました。栄光学園での体験が、故人とそこご家族にいかにか大きな足跡を残していたか語られておりました。



追悼ミサの様子

2016年度 栄光学園同窓会定期総会議事録

同窓会事務局 前山茂雄(13期)

[日 時] 2016年5月14日(土) 12:05～15:10

[場 所] 栄光学園アロイジオ会館ホール

[出席者]

会長:菱沼徹臣(17)、副会長:関根修一(20)、山田宏幸(30)、

部長:青木嘉光(10)、島崎裕之(26)、高橋英治(28)、近藤亮介(45)、常任委員:大石 進(2)、鈴木宙明(4)、河相 董(8)、内山正樹(9)、後藤典彦(11)、花川泰雄(11)、花井勝三(12)、大島弘尚(14)、坂本永造(17)、角皆茂樹(17)、蓮沼明(17)、広瀬裕敏(21)、佐藤耕太郎(27)、宮川祐一(30)、米村俊彦(43)、石田明久(51)、川本哲也(53)、岡田 猛(62)、監事:上甲雅敬(33)、事務局長:前山茂雄(13) (以上役員・常任委員 27名)

支部役員:河相 董*(藤沢栄光会 8)、青木嘉光*(逗葉栄光同窓会10)、村田讓二(鎌倉栄光会 13)、上原 真(栄光学園横須賀栄光会 31)、菅田栄一(栄光同窓カトリックの会/山岳部OB会 6)、川田俊一(生物部OB会 8)、花井勝三*(野球部OB会 12)、平岡慎雄(インディアンクラブ17)、高橋正明(サッカー一部OB会 19)、古谷哲夫(物理部OB会 21)、森 義博(明治安田生命栄光会 25)、福島和彦(プラスバンド部OB会 45)、梶原章宏(バドミントン部OB会57) (以上支部役員 10名 除く(兼)出席者) *(兼)

各期委員:小島恒雄(1)、富山英昌(3)、吉崎蓮一(4)、赤井明郎(5)、中村正二(5)、三春勝正(6)、石川俊克(7)、荻原佳紀(7)、斎藤 肇(7)、高井直紀(8)、小久保勝右(9)、八木英樹(9)、土屋恵彦(9)、柿沼宇佐(10)、谷 繁信(13)、高垣洋太郎(14)、杉浦俊紀(16)、早川光敬(18)、周佐喜和(28)、前田真孝(29)、森 厚(31)、本多 昇(34)、清浦章吾(40)、西條達(40)、片桐悠貴(51)、平 瑤平(64)、(以上各期委員 26名)

オブザーバー:中村 稔(33)

総計64名

来賓:萱場 基 前理事長、望月伸一郎 校長

* 役員・委員は2016年度の区分による。

* カッコ内の数字は卒業の期。



2016年度定期総会(5月14日)

[議事内容]

1 議長の選出

仮議長を務める山田副会長が開会を宣言し、議長に花井常任委員(12)を選出した。

2 萱場 基 前理事長のご挨拶



萱場前理事長

前理事長と紹介されましたが、学校法人栄光学園は解散し上智学院に統合されたので理事長の後任はありません。学校法人は解散しましたが、学校としての栄光学園は何事もなかったように授業が行われ、新校舎の建設

工事も続いています。私は最後の理事長ということになりましたが、4月以降は学校法人上智学院の監事に就任し、毎日四谷へ通っています。監事は教員として教えることが出来ませんが、チャプレンとして栄光学園と関わることになりました。同窓会の皆様には在任中から新校舎建設のみならずOBゼミなどでも大変お世話になりました。引き続き栄光学園の教育活動、卒業生のケアなどについて、今まで通りよろしくお祈りします。この同窓会総会でこれからの会の方向付けが出来るよう祈念しています。今日はお招きいただきありがとうございました。

3 望月 伸一郎 校長のご挨拶

昨年4月から校長となりようやく1年が終わりました。同窓会の皆様には日頃からお世話になり、たくさんのご支援をいただきありがとうございます。昨年は同期会などに可能な限り参加して、70周年事業の進捗報告などさせて頂きました。今年もお邪魔でない限り参加させていただきたいと思いません。先ほど萱場前理事長からお話がありましたが、学校法人栄光学園は上智学院に統合されました。栄光の理事長はいなくなりましたが、同時に栄光の長い歴史の中で初めてイエズス会の神父がどなたも教壇に立つことが無くなりました。今までイエズス会の神父が何人いるからイエズス会学校であるというアイデンティティーだったが、これからは一人一人がより良いイエズス会学校にしていこうという働き方が課題になります。イエズス会中高校4校の中でイエズス会神父が教職員でなくなったのは、栄光が初めてです。新しい道を切り開いていくという意味でも頑張っています。

神父はいなくなりましたが、栄光学園としてはイエズス会校であることがより一層見える形で教育活動を展開してい

ます。その一つとしてこの夏休みにアメリカのイエズス会校であるボストンカレッジに30名の高校生を派遣することにしました。イエズス会校は全世界で2千校ほどあります。これらとどのような有機的関係を作っていくかというのが、栄光のグローバル教育となります。

新校舎の工事については順調に進んでいて、西棟は8月に完成予定です。また、旧校舎の教室などのネームプレートを回収したので、同窓会に預けたいと思います。

建築工事は順調に進んでいますが、資金集めの方は順調とは言い難い状況です。より一層のご協力をお願いします。

今日は、総会にお招きいただきありがとうございました。

4 菱沼 徹臣 同窓会会長挨拶

同窓会会長の17期菱沼です。今年は4年目ということで今後ともよろしくお祈りします。

校長先生からも紹介がありましたが、70周年記念事業として新校舎建築にむけて募金委員会に参加しています。学園・後援会・栄光会とともに一緒になって募金を進めていこうということでやっています。同窓会としては募金目標2億円としていますが、現状は1.5億円程度です。また全体では5億円の目標に対して、道半ばの状況です。同窓会の皆様には今まで以上のご協力をお願いします。

昨年の同窓会総会で“母校70周年事業を支える会”発起人の選任をお願いしましたが、募金委員会中心に活動が進み始め、屋上屋を重ねることになるので止めようということになりました。勇み足でお詫びを申し上げます。



菱沼同窓会会長

同窓会の70周年事業としては、新校舎建築フォーラムや、懸案だった東京フォーラムを初めて丸の内の日本工業倶楽部で開催できました。200名を超える参加があり、特に若手もたくさん参加していい会だったと思います。今年もう一度東京で開催し、来年は4月に新校舎が落成するので同窓会としてどうやって行くのか策を練っているところです。新校舎のお披露目会や夏の記念コンサートを企画しています。これらのイベントを通じて新校舎の資金集めムード作りを含めて同窓会で引っ張っていこうと思っています。

今日の総会の一番の議題は会則改訂です。同窓会会則も60年経って、今では全54条という非常に大きなものになってしまいました。他校例を見ると同窓会会則は大体20数条

になっています。それだけ知恵が詰まったものではあるが、もう一度シンプルなものに戻そうとしたものです。後ほど総務部長から説明がありますが、ポイントとしては若手をどんどん募って積極的な活動をしたい、審議機関としての常任委員会を強化したいという点です。また、特に活動していない期などの活性化がポイントです。

学校法人は上智学院に統合されたが、栄光学園はずっと残ります。我々が引き継ぐDNAがもっと強く継承されるよう同窓会も頑張らなければならないので、皆様にはなお一層のご支援・ご指導を賜りたいと思います。

5 64期委員紹介

花井議長より今年入会した64期の委員6名の紹介があった。

宮地洋輔、廣本宜峻、木戸悠介、
清水一喜、平 瑤平、中澤梓文

6 2015年度事業報告

山田副会長より、議案書に沿って報告が行われた。

昨2015年度は「血の通う同窓会」のモットーのもと、活性化の3年目として諸施策に取り組んできた。コミュニケーションの活発化と情報発信及び共有の促進を狙い、ホームページの充実や、会員専用ネットワーク EACON の普及を行うとともに、アンケート結果を踏まえ、認知度の高いアラムナイの誌面サイズを見直すなどした。

母校創立70周年事業への支援では、募金委員会(学園、栄光会、後援会、同窓会4者の連絡会)でイベント等の企画を提案し、同窓会事業として、新校舎建築シンポジウムや栄光OBフォーラム@TOKYOなどを実施した。なお、「母校70周年事業を支える会」発起人会の立ち上げについては、諸般の状況を踏まえ、実施を見送った。

活動サポートは、各期の活動活性化を模索するとともに、野球部OB会の設立等を支援したが、若手の掘り起こしなど、さらなる活性化を模索する必要がある。

組織活性化ワーキング・グループの答申を受けて立ち上げた会則改訂作業チームは、組織改編や会則の見直しなどを進めた。しかし、名簿発行、会費徴収及び経常収支といった課題については議論を進めることが出来ず、次年度以降の継続課題となった。

① 総務部

- ・同窓会会則を全面的に見直し、改訂同窓会会則案をまとめた。
- ・会員名簿の今後を検討する初年度として今後の本格的な議論に向けて資料の整備を行った。

- ・イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)が上智福岡中学高等学校で行われ、会長と副会長が参加した。

② 財務部

- ・会費請求は、第2グループ702名の会員とその他グループのうち未納の会員3,185名に請求書を発送した。
- ・口座振替利用率は、対前年比1ポイント改善の26%となった。
- ・50%超えを目標とした会費の納入率は、対前年比3ポイント改善の48%となった。

③ 広報部

- ・会報「栄光アラムナイ」は、誌面をA4サイズに拡大し84・85号を発行した。
- ・同窓会ホームページ(HP)は、随時新しい記事を公開しつつ運用している。
- ・「EACON」運用促進のため栄光祭で受付窓口を設置し、会報・ホームページで記事を掲載している。

④ 事業部

- ・栄光祭でホームカミング・デイを実施(OBの部屋「アラムナイ」の設置)した。
- ・母校創立70周年事業協賛企画として「新校舎建築シンポジウム」を2015年5月に開催した。
- ・11月に初の東京開催になる「栄光OBフォーラム@TOKYO」を丸の内の日本工業倶楽部で実施した。
- ・OBゼミ(高1ゼミ、公開ゼミ)への25期・35期からOB講師を派遣した。
- ・歴史・文学散歩は三春勝正氏(6期)・大島弘尚氏(14期)を中心に4回実施した。

⑤ 活動サポート部

- ・同期会開催・「EACON」普及のための支援を継続した。
- ・新規支部として野球部OB会が11月に発足した。
- ・歴史あるオール栄光ゴルフコンペの再活性化の為、同窓会としても活動を支援することとした。
- ・イエズス会4校同窓会で連帯し「東ティモールのイエズス会校」に、例年通り支援金を拠出した。
- ・現役栄光生で、脳腫瘍と闘う少年音楽家の加藤旭君(66期)のCDの販売促進、コンサート開催の情宣を行った。

7 議 題

第1号議案 2015年度決算承認に関する件

近藤財務部長(45)より収支計算書及び貸借対照表について説明があった。

当期収入は対予算222万円増の1222万円であった。会費収入が過年度分・前受金分ともに予算より多くなった。

当期支出は対予算299万円減の1171万円であった。名簿発行がない年であり、諸活動の予算を多めにとったが、ほとんどの科目で平年並みに収まった。

引き続き、上甲監事(33)より監査報告が行われ、「原田監

事(24)と共同で監査した結果、収支計算書及び貸借対照表の内容は適正なもの認められる」との報告があった。

挙手による採決の結果、第1号議案は挙手多数で承認された。

第2号議案 役員選任に関する件

今年度は改選の年ではないので、役員の変更は中村正二常任委員(5)の辞任のみで、その他の役員・常任委員・期委員について議案書に沿って紹介があった。

新規設立支部として“栄光学園野球部OB会”、役員が交代した鎌倉栄光会・栄光学園横須賀栄光会・栄光同窓カトリックの会の新役員が紹介された。

挙手による採決の結果、第2号議案は挙手多数で承認された。

第3号議案 2016年度事業計画案承認に関する件

山田副会長より議案書に基づき、今年度の事業計画について、以下の説明があった。

本2016年度は、翌年に迫った母校創立70周年事業への支援が活動の軸となる。本年度秋に予定するイベントで盛り上げを図り、来年度に予定する新校舎落成後のイベントの企画準備を進めるなど、引き続き、募金委員会を通じて70周年事業へ積極的に関与していく。

また、会則の改訂を一つの機会として捉え、会務執行と審議機能の明確化及び強化、同期会・支部のさらなる活性化、若手幹事の発掘など「血の通う同窓会」へ、流れをさらに進めたい。

会の財政は、根本的に手法を変えていかなければ、将来立ち行かなくなることが推察される。前年度の課題として挙げながら本格的な議論に至らなかった停滞する会費納入率と会費徴収方法の課題、会員データ管理と名簿印刷の課題、関連するEACONの普及現状などを、今後の同窓会運営の最重要テーマとして掘り下げて議論し、進むべき方向性を探っていききたい。

① 総務部

- ・会員名簿の今後のあり方の検討を行う
- ・同窓会会則が本総会で承認された場合、施行状況をフォローし適宜対処する。
- ・イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)は今秋に広島学院中学高等学校で開催予定であり、本同窓会からも参加する。

② 財務部

- ・2015年度に引き続き2016年度は会費情報のデータベース化を進める。
- ・会費情報データベースを利用して各種イベントで会費が未納である会員について積極的に納付をお願いし、納入率50%超を目指す。

- ・会費納入方法や他の収入源の検討、各種イベントの実施や名簿のあり方等を勘案し、中長期的な視点に立った、より健全な収支モデルを検討する。

③ 広報部

- ・会報「THE EIKO ALUMNI」では、引き続き広くOBからの記事を募り掲載していく。また、母校創立70周年事業の支援のため、イベント開催案内や特集記事など編集を進める。
- ・同窓会ホームページは、ますます活発に記事を掲載していく。母校創立70周年事業の支援として、ホームページにおいてもイベント開催案内や特集記事など注目を集めるよう努める。
- ・EACONの運用促進については、会報やホームページで関連する記事の掲載を継続する。
- ・より若手の卒業生が参加しやすいコミュニケーションツールの利用を検討する。EACONでは、名簿機能やイベント案内などを継続して充実させ、既存SNS(Social Network System)への参加者にもEACONの利用が広まるようにする。

④ 事業部

- ・同窓会員交流事業として、従来から行っていた栄光祭におけるホームカミング・デイ、秋に東京でOBフォーラム、年4回の歴史・文学散歩、に加え、今秋を目途に、就職を控えた学生会員を対象に就活アドバイスや先輩社会人との交流の場を提供する就活ゼミの開催を予定している。
- ・例年通り、OBゼミへの講師派遣を行う。本年度は26期と36期が担当する。
- ・「栄光学園創立70周年事業」に関連して、新校舎見学会(2017年に開催予定)、母校創立70周年記念コンサート(2017年8月開催予定)等を企画推進する。
- ・OBフォーラム等では寄付呼びかけを行っていく

⑤ 活動サポート部

- ・各活動の核として活躍する人材及び世代に応じた対応方法や手法を整え、活動をサポートしていく。
- ・広報部とも連携してEACONの機能を積極的に活用し、新規支部立ち上げへの支援や各期支部等への利用を促すことで、各支部等の活動を活性化させていく。
- ・2016年9月4日(日)によみうりゴルフ倶楽部で開催される『母校創立70周年記念オール栄光ゴルフコンペ』を後援する。
- ・東ティモールイエズス会校への支援などの社会貢献活動を行っていく。

挙手による採決の結果、第3号議案は賛成多数で承認された。

第4号議案 2016年度収支予算案承認に関する件

近藤財務部長より、今年度の予算案に関し、議案書に基づき説明があった。

- ・収入については、会費収入を保守的にみて、昨年度より若干減少。
- ・総務費支出は事務局業務増大、慶弔費の拡大傾向への対応で昨年実績より多めに計上した。
- ・事業費支出は名簿を発行せず今後の検討をするためその分少な目だが、支部・活動グループ支援、OBフォーラム運営費など多めに計上した。

質疑:

- 富山委員(3):今年度OBフォーラムは東京開催とのことだが、家族連れでなど多数の参加があった横浜では開催はしないということですか。
- 山田副会長: OBフォーラムは従来高1ゼミの興味深い内容を広くOBの方へも公開しようということで、当初は学園の小講堂を使って開催した。ある程度定着してきた中でいろいろな会場での開催や4年に一度のオール栄光同窓会の中での開催など模索しています。昨年度初めて東京で開催したところ、幅広い世代から多くの方が参加してくれて成功でした。一方、大船とか横浜での開催も必要と思っています。部長会等の議論では、東京と大船・横浜で毎年交互に開催との意見も出ています。今後も部長会で議論を続け、また皆様のご意見もいただいて、検討していきます。決して東京だけで開催するというものではありません。
- 富山委員: 今年度は東京開催ということですか。
- 山田副会長: はい、秋口に東京で開催したいと考えています。
- 富山委員: 秋口ということは、来年の春にもやるということですか。
- 山田副会長: はい、別に紹介していますが、来春の新校舎の竣工に合わせて同窓会の皆さま向けの何かイベントを考えています。内容は検討中ですが、基調講演などを入れてOBフォーラムとしていくことも可能と思います。
- 石田委員(51):会費納入率が3%アップしたが、継続的に改善していく為の要因分析は出来ていますか。
- 近藤財務部長:特別な活動をしなかった。改善したのは良かったが、継続的改善のための具体策は今年度に検討します。具体的には、同期会や支部のイベントの参加者に会費納入状況をお知らせして、参加者で会費未納の方がいない様にしていきたい。また、理由の一つに

会費納入方法の複雑さがありこれからの検討課題と考えている。

- 石田委員 :納入方法の複雑化以外に、納入依頼書が本人に届いていないこともあり得ませんか。卒業以降の名簿情報の変更は本人の申告・修正によるがそれが十分でない依頼書は届きません。また、依頼は届いても払う気にならない人もいるかもしれません。久し振りに納入した人に何故払う気になったのかヒアリングするのも一法ではないでしょうか。
- 近藤財務部長:未だ分析は出来ていません。役員などの働き掛けが効果を発揮しているのかなと思いますが、これからの課題としていきたい。
- 西条委員(40):名簿印刷費が予算化されていないのは、名簿のあり方検討が終るまで発行しないということか。また、EACONの促進補助金は今年度も継続するのか。
- 関根副会長 :名簿は、予算化していないので今年度は発行しません。来年度については今年度中に検討します。
- 近藤財務部長:EACONの利用がかなり停滞しているので、今年度も促進補助金を継続します。

挙手による採決の結果、第4号議案は賛成多数で承認された。

第5号議案 会則改訂に関する件

- 青木総務部長より、会則改訂提案について議案書に基づき説明があった。
- 本提案作成に当たり、中村さん(33)、米村さん(43)、松崎さん(47)、川辺さん(48)等これから同窓会の中心になる比較的若いメンバーに議論に参加してもらい、常任委員会でも専門家のアドバイスいただいて、今日の提案の形にまとめることが出来ました。菱沼会長の就任以来、「同窓会の活性化」を目指してきましたが、昨年度はその中で、会則に取り組んだものです。
- 膨大・複雑になった現会則を整理し、活動の活性化を目指しました。期委員の責任や支部活動の明確化、常任委員会を審議機関・部長会による日常業務の効率化などを簡潔で分かり易い条文にして会則の体系を整理しました。会則改訂は通常提案後1年間状況を確認してから本改訂としていますが、今回は新たに取り入れた部長会や幹事などは既に動き出しているし、その他内容的に大きな改訂でもないので、決めた後不都合があったら再度改訂するという手順で進めることにしました。文言の改訂以外の主な修正点は、組織として本部・同期会・支部を明記、委員に幹事を追加し、実務担当者は常任委員に限らず会員の中から選任出来る

様にしたこと、慶弔やホームページについては細則に回すことにした等です。

質疑:

富山委員(3期): 現会則は歴史の中で出来上がってきたものの。特に支障のない条文まで大急ぎでこの総会で決定する必要はないと思う。

関根副会長: 過去の会則改訂では提案後1年かけて検証の上施行していたが今回の改訂案では部長会・幹事など既に動き始めているもの、文言修正程度のものであるため、今日決めてしまうのはイレギュラーであるが止むを得ないと考えています。

小久保委員(9期): 会計監事という名前が付けられているが、コンプライアンスも含めて考えるべきで単に監事とすべきだと思います。

青木部長: 監事の仕事の実態が会計に限られていること、また新しく制定した幹事との選択の結果、会計監事とした。

花井議長: 今日は原案の様に、今後変化があった時に再度考えることにしたいと思います。

土屋委員(9期): 幹事は従来からの期の委員と同じですか。

青木部長: 幹事は普通に働く人で会員の中から自薦・他薦等いろいろな方法で決められ、期の委員とは異なります。幹事・期の委員とは併存するものです。

三春委員(6期): 改訂が決まったら、どう広報しますか。

青木部長: 他校と比べてもそんな色ないものになったので、ホームページで広報したいと考えます。また、会報(アラムナイ)や(発行されるならば)名簿にも掲載します。

石川委員(7期): 仲間の訃報が増える年代になって慶弔規定が気になります。期の委員が申請し、会費等の条件を満たせば同窓会から供花があるということのPRが大切だと思います。そうすれば会費納入の増加が期待できるでしょう。

森委員(31期): 「同期会」に関する規定を見ると期の委員の代表者は代表者が届け出ることになっている。現時点で代表者は明確になっているのか。また、正統性の担保の為に代表の届け出が代表者本人であることは見直した方が良いと思う。

菱沼会長: 代表者だけでなく、常任委員もはっきりしていない期がかなりある。これらの明確化を図っていきたくと思っています。

鈴木委員(4期): 組織図・機能図を作成して下さい。常任委員会・部長会では必ず議事録を作成・開示し

て欲しい。会費については、納入状況のフィードバックが有効と思う。どこまで情報を開示できるか検討して、対応して欲しい。

青木部長: 組織図・機能図は何回か書いてみた。早く最終版を作って開示します。議事録については手間がかかるので、録音データの活用等も含めて検討したい。

挙手による採決の結果、第5号議案は賛成多数で承認された。

花井議長: 会則改訂は承認されたがこれで終わりということではなく、引き続き皆様の多くの納得が得られるよう努力していくことを同窓会執行部として約束します。

以上により、承認を必要とする議題の採決は全て終了した。

その他

島崎活動サポート部長から、母校創立70周年オール栄光ゴルフコンペの開催、66期加藤旭君のコンサートとCDについての紹介があった。

8 閉会の辞

岡田委員(62期)が閉会の辞を述べ、15時10分、同窓会定期総会は閉会した。

栄光OBフォーラム@TOKYO2016 を開催します

事業部長 増木洋介 (30期)

昨年多くの方にご参加いただいた東京開催のOBフォーラムを、今年は11月6日(日)11時から、東京のお茶の水に位置するホテル「東京ガーデンパレス」で開催します。

第一部は同窓生によるパネルディスカッション、第二部は懇親会をおこないます。

パネルディスカッションのテーマは「人を繋ぐ、社会を繋ぐ～栄光卒若手起業家の挑戦」。NPO法人クロスフィールズ代表理事として日本社会の課題解決に挑む小沼大地氏(49期)と株式会社エマリックにたち代表取締役として都市農業に着目した生産者と消費者を繋ぐビジネスに挑戦している菱沼勇介氏(49期)の活動を紹介しながら、人生の大先輩であるあいおいニッセイ同和損害保険株式会社副会長の鈴木久仁氏(17期)や、栄光学園校長の望月伸一郎氏を交えて、様々な視点でのディスカッションを繰り広げていただきます。モデレーターは、テレビ朝日元アナウンサー

で現在社会部記者の中丸徹氏(42期)です。キレのある進行にご期待ください。

参加希望の方は、EACON、Email、FAXのいずれかで10/29(土)までにお申し込みください。詳しくは同封のチラシをご覧ください。



東京ガーデンパレス アクセス

大盛会!! 第一回「オール栄光ゴルフコンペ」 118名もの同窓生が参加

運営事務局 渋谷直人 (27期)

「誰だ? 雨男は」、「何も今日降らなくても・・・」、「EIKOパワーで何とか。。。」。

2016年9月4日の日曜日早朝、東京都稲城市にあるよみうりゴルフ倶楽部では、前日夜からの雨模様で、参加者の心はドンヨリしたまま、競技スタートの時間が迫っていた。

前年9月16日の同窓会コンペ懇親会の席上で、それまでのコンペを長年取り仕切ってこられた7期の高須賀氏より「来年度より若い世代に引き継ぎ、より大規模で幅広い世代の同窓会コンペへ発展させよう」との宣言がなされた。従来からのその大会は、平日に県内の名門コースで開催、結果として参加者の大半が同窓生の十期台以上の方々を中心、というものだった。年々参加者が減少していくなか、「現役でも気軽に参加できる休日開催で、多くの期の参加を促し最低でも100名超の同窓生コンペを目指す」を旗印に学園創立70周年を契機に企画しよう、との菱沼同窓会会長の呼び

かけで有志による事務局が立ち上がった。

集まったメンバーは、17、20、24、26、27、30各期の面々8名、翌10月から月1回のペースで集まり、ゴルフ場の選定から参加者募集の方法、競技ルール、賞品内容、当日運営に到るまで協議を続けた。

最も心配だった参加者集めも、アラムナイ・HPでの告知、栄光祭でのピラ配り、従来からの同窓会ゴルファーネットワークの伝手、部活動OB会での働きかけなど、あらゆる方法での応募呼びかけを行い、6月頃には最低目標であった100名の目処がついてきた。

実はこれらの集客の裏では、各期の同期ゴルフイベントの「とりまとめ役」に多大なる活躍をいただいた。

その結果、1期から54期までの実質三世代、さらには小泉先生、林副校長にもエントリーいただき、総勢118名もの多くの同窓生が参加する一大イベントとして開催する運びとなった。

8時12分、トップスタートの組がティーグラウンドで最初のショットの準備をしていたところ、皆の想いが天に通じたのか、それまで降り続けていた雨が奇跡的に上がったのである。

同期2名がペアになり、他の期のペアと一緒にラウンドする形式で、トータル30組の年次、世代を越えた4人組が、18ホール、5時間に亘るプレイを通じて交流を深める。クラブチャンピオン経験のあるいわゆるシングルプレイヤーからエンジョイゴルファーまで、様々なレベルのメンバーが一同に集い、共に汗を流し、共にボールを追いかけた。

最初の組が上がった後、最終組の終了までは、おおよそ2時間。全体パーティが始まる頃には、アルコールですっかりできあがった面々も数多く、表彰式兼懇親会は開会から和気あいあい、大盛り上がりでスタートした。

30期山田氏の司会進行のもと、菱沼会長の開会の言葉に続き、同窓会元会長の2期沼田氏の乾杯のご発声、そして林副校長からの学園通信と進んでいった。そしてこの日のメインイベントである表彰式へ。

個人戦のネット部門では31期の森本義晃氏が、グロス部門では20期の小島宏氏がそれぞれ素晴らしいスコアで優勝、輝くトロフィーを授与された。

また団体戦は期対抗と部対抗の二方式を採用、期対抗戦のネット部門では20期が、グロス部門では27期が栄冠を手にした。27期は今大会にあたり、14名もの精鋭を揃え、1か月前には本コースでの練習ラウンドを行うなど、並々ならぬ意気込みで臨んだ末、初代実力ナンバー1の期の榮譽を勝ち獲った。また特筆すべきは、先生と一桁期台(1、2、5、8期)の卒業生による連合チームの活躍で、何と期対抗戦の



オール栄光ゴルフコンペ 集合写真

ネット、グロス双方の部門でどちらも準優勝を飾り、ゴルフは体力や若さではなく、経験と実績と年の功であることを証明いただいた。

一方の部対抗戦では、一大勢力の野球部やサッカー部をおさえ、わずか5名参加の卓球部が制したのである。今回20名以上を集めた野球部をはじめ各部の意地とプライドを賭けた、来年以降の巻き返しが待たれるところである。

その後、学園創立70周年事業について70周年事業募金委員会委員長である1期の徳永氏よりご説明、7期の高須賀氏による前年コンペからの橋渡しのお言葉、そして小泉先生から近況報告をいただいた。

最後に、参加メンバー全員での記念撮影を行い、次回のコンペでの再会を約束して、丸一日にわたった会はお開きとなった。

なお次回幹事の事務局は、団体期対抗戦の優勝と5位のチームに担っていただくことになっていたため、20期と22期の方々をお願いすることになった。

来年以降も、どんな悪天候も吹っ飛ばす「EIKOパワー」で、同窓会活動における一大イベントの一つとして皆で盛り上げていきたい。

会の運営にあたり、学園をはじめ各所、各期有志の方々のご協力、多数の協賛品のご提供をいただいた。事務局を代表してこの場を借りて御礼申し上げたい。

上智福岡中学高等学校同窓会・泰星会 創立60周年記念式典・祝賀会に参加して

同窓会副会長 山田宏幸 (30期)

平成28年7月3日(日)、姉妹校の上智福岡中学高等学校の同窓会「泰星会」の創立60周年記念式典及び祝賀会が、福岡の「グランドハイアット福岡」で行われました。泰星会から本校同窓会への式典及び祝賀会招待の連絡があり、山田が出席しました。

会場は、博多の中心街であるキャナルシティ博多にある

ホテルで、式典が10時30分から行われるということでしたので、前日に博多に入りました。当日は梅雨の最中の晴れ間という感じで、とても蒸し暑く、私が宿泊した駅前のホテルから会場まで徒歩で10分ほどの道のりだったのですが、会場に到着するころには、汗びっしょり。汗が引くのを待ち受付へ向かうと、すでに沢山の人がいらしており、60周年式典への泰星会の皆さんの思い、意識の高さが伺えました。ほぼ同じタイミングで、六甲学院、広島学院の同窓会の方もいらしており、合流する形で、式典の開始を待ちました。

当日の式典と祝賀会の概要は以下の通りです。

《第1部記念式典、第2部祝賀会》

- 1 日時 2016年7月3日(日) 第1部10:30～ 第2部13:00～
- 2 場所 グランドハイアット福岡
- 3 幹事 主幹事47期生(栄光44期相当)
副幹事48期生、57期生、67期生
- 4 概要
(1) 記念式典・講演会
(2) 祝賀会
- 5 開催テーマ: Pay Forward ～恩送り～

第1部の記念式典では、まず吉村同窓会副会長の開会宣言の後に国歌と校歌の斉唱です。姉妹校からの来賓者は、さすがに上智福岡の校歌は歌えませんでした。ご用意いただいた最前列の席で起立し、全面スクリーンに映される歌詞を泰星会の皆さんの歌声に合わせて、何となく口ずさむ感じ。次に泰星会の八尋同窓会会長からご挨拶がありました。八尋会長は、泰星学園(現上智福岡中学高等学校)の歴史から、同窓会の生い立ち、歴代の先輩方への感謝、そしてこれからの同窓会の展望などを熱く語られました。

姉妹校であり、学校法人が合併した上智福岡中学高等学校は、1932年(昭和7年)に福岡カトリック神学校として創立され、1936年(昭和11年)に泰星中学校と改称し、カトリックマリア会の経営を経て1951年(昭和26年)学校法人泰星学園設立、1983年(昭和58年)にイエズス会に経営移管し、

今年で創立84周年を迎えます。さらに特筆すべきは、2012年(平成24年)から男女共学化したことで、あと1年半ほどすると、泰星会に女性同窓会員が誕生します。

さて、式典は同窓会長のご挨拶に続き、記念事業実行委員長の47期田村氏(本校44期相当)、第16代校長イエズス会日本管区長の梶山神父、現校長の大石校長先生のご挨拶、来賓の紹介と続きました。次に「学園創立からのあゆみ」「上智福岡中学高等学校の紹介」では、現役在校生である生徒会会長、副会長、書記の3人が男女混合で登壇し、パワーポイントや動画などを駆使して見事に学園の歴史を振り返り、さらに現在の学園生活を紹介してくれました。この在校生と同窓会とのコラボレーションは、とても新鮮で良い企画でした。

そして、式典の締めくくりとして、48期宇都宮崇人氏から「時代を超えるエンタテイメント」と題した特別記念講演が行われました。宇都宮氏は、株式会社ポケモンの常務執行役員であり、大学卒業後経営コンサルタント会社を経て2005年に株式会社ポケモンに入社し、以後ウェブプロモーション、小売店舗事業、カードゲーム事業、キャラクターライセンス、ビデオゲーム開発などの各種事業を担当し、現在はゲーム開発部門を担当しています。今を時めく“ポケモン”執行役員の、内容は少しマニアックでもありましたが、全体的には仕事に対する気持ち、思いが大切だというシンプルなメッセージが伝わる、とても良い講演でした。

さて、宇都宮氏の講演が終わり、同じ会場を模様替えて、第2部の記念祝賀会が行われました。鏡開きの前に、姉妹校から、広島学院翠友会の栗屋会長が代表してご登壇され、祝辞を述べられました。その後、来賓全員が法被を羽織って登壇し、2か所に分かれて鏡開き、さらに枥酒で乾杯です。

乾杯の後には、少々趣向の変わった演出が待っていました。地元の女性アイドル？パフォーマンスグループが、和太鼓のリズムに乗って、壇上で踊り出したのです。5人の女性パフォーマーがスカイブルーの法被を着て踊り、決めのポーズでは写真撮影を促し、さらに壇上でのパフォーマンスの後には、会場を廻り、各テーブルでの記念撮影、ついでにお捻りの催促までしっかり、ちゃっかりしていました。この演出には、来賓の皆さんもかなり驚いていました。少々時間が長かったので、最後はやや緩んでいましたが、最初のインパクトは強烈でした。(同窓会との因果関係は不明です…)

そのような盛り上がりの中、終盤には元同窓会長の皆さんへの感謝を込めた表彰と、さらには現八尋会長へ田村実行委員長から花束の贈呈があり、さらに泰星中学高等学校の校歌「時代の暁」を参加者全員で斉唱しました。ちなみに、記念式典冒頭に歌ったのは上智福岡中学高等学校の校歌「はばたけソフィアの鷲よ」とのことです。

次年度同窓会総会の主幹事である48期生参加者全員が

登壇し、47期生から次回総会の幹事を引き継がれ、代表者が決意表明をしました。最後に中島同窓会副会長から閉会のご挨拶があり、改めて謝意を述べられるとともに再会を誓われました。



前列左から山田副会長、広島学院翠友会栗屋会長、六甲学院伯友会豊田副会長、広島学院翠友会林副会長

式典と祝賀会に参加し、上智福岡中学高等学校同窓会・泰星会の歴史や文化を感じることができ、とても有意義でした。4校同窓会に共通して流れるもの、それぞれの個性をさらに活性化させるため、今後も4校同窓会が交流を深めていければと思います。

同窓会各部からの連絡

「栄光学園同窓会会則」の改訂について

総務部長 青木嘉光 (10期)

前号のアラムナイに記載の通り、同窓会本部では「会則改訂作業チーム」を設置し、2015年度一年間をかけて「栄光学園同窓会会則」の改訂に取り組んできた。その間7回の「作業チーム」の会合、更に2月、4月の常任委員会の審議を経て改訂案が纏まり、2016年5月14日の総会において審議、承認され、同日から施行された。

主要な改訂は ①同期会を会則に明記、②事業実行に関与する会議の設置、③実働人員登用面の手当の3点。新しい会則は29条となり、旧会則の54条に比し簡潔になっている。以下に、新しい「栄光学園同窓会会則」全文を記載し会員の皆様にご報告申し上げます。

【栄光学園同窓会会則】

第1章 総則

第1条(名称)

本会は、栄光学園同窓会と称する。

第2条(目的)

本会は、栄光学園出身者間の親睦を図ると共に、母校

で学んだ高い理想と教養を保ち母校の発展に寄与し、社会に貢献することを目的とする。

第2章 事業

第3条(事業)

本会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 会員間の親睦促進
- 2 会員と母校との連絡及び相互援助
- 3 会員名簿及び会員データベースの管理
- 4 会報の発行、ホームページの運用
- 5 その他必要な諸事業

第3章 会員

第4条(正会員と特別会員)

- 第1項 栄光学園高等学校卒業生を、正会員とする。
- 第2項 同学園に在学したことがある者は、細則の定めるところに従い、正会員となることができる。
- 第3項 栄光学園教職員、旧教職員で本会の目的に賛同し入会を希望する者は、特別会員とする。

第4章 組織

第5条(本部)

- 第1項 本会の本部は、栄光学園内に置く。
- 第2項 本部には、事務局及び部を置く。
- 第3項 会長は、常任委員会の議を経て、必要に応じて特別委員会等を設置することができる。

第6条(同期会)

- 第1項 卒業年次を同じくする正会員は、各同期会に所属する。第4条第2項による正会員は、対応する学年の同期会に所属する。
- 第2項 同期会は、期委員の代表及び事務担当者を選任し、別途定めるところにより、本部に届けるものとする。

第7条(支部)

- 第1項 正会員は、地域、職場あるいは職種、在学時の部活動、特定の社会活動等を行う活動グループなどを単位として、支部を設置することができる。
- 第2項 支部の設置及び運営は、別途定めるところによる。

第5章 役員および委員

第8条(役員)

- 第1項 会長、副会長、常任委員、幹事、事務局長、会計監事をもって本会の役員とする。
- 第2項 役員の定数は以下の通りとする。

会長	1名
副会長	2名以内
常任委員	相当数
幹事	相当数

事務局長 1名

会計監事 2名

第3項 役員は正会員でなくてはならない。

第9条(会長)

- 第1項 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- 第2項 会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし通算で3期6年を越えることはできない。
- 第3項 会長は、常任委員会の推薦に基づき、総会で選出する。

第10条(副会長)

- 第1項 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。副会長が2名あるときは、会長はあらかじめ職務代行者を指名しておくものとする。
- 第2項 副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第3項 副会長は、常任委員会の推薦に基づき、総会で選出する。

第11条(常任委員)

- 第1項 常任委員は、会務を審議するほか、本会則に定められた事項を決定する。
- 第2項 常任委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第3項 常任委員は、第17条に定める委員の中から総会で選出する。
- 第4項 常任委員と、会長、副会長、事務局長、幹事との兼任は妨げない。

第12条(幹事)

- 第1項 幹事は、部又は特別委員会に所属し、本会の事業運営にあたる。
- 第2項 幹事の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第3項 幹事は、会長の推薦に基づき、常任委員会が任命する。
- 第4項 会長は、各部の部長及び特別委員会等の長を指名する。

第13条(事務局長)

- 第1項 事務局長は、会長の命に従い、日常会務を執行する。
- 第2項 事務局長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第3項 事務局長は、会長の推薦に基づき、総会で選出する。

第14条(会計監事)

- 第1項 会計監事は、本会の財産状況及び会務の収支に関する事項を監査し、総会に報告する。
- 第2項 会計監事の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第3項 会計監事は、常任委員会の推薦に基づき、総会で選出する。

第15条(役員欠員等)

- 第1項 役員が欠けたときは、常任委員会において補

欠の役員を選出する。その任期は総会までとする。

第2項 任期満了によって退任する役員は、新たに役員が選任されるまで引き続き、その職務を行う。

第16条(役員解任)

役員解任は、委員総数の3分の1以上の賛成で発議し、総会の承認を得なければならない。

第17条(委員)

第1項 同期会及び支部は、互選により委員を選出する。

第2項 同期会及び支部の委員の定数は、以下の通りとする。

期委員 2名以上6名以内

支部委員 若干名

第3項 委員は、選出母体の活動を企画・運営・統括するとともに、総会に参加する。

第4項 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第5項 委員は正会員でなくてはならない。

第18条(委員の欠員等)

第1項 同期会は、委員の定数に不足が生じたときは、すみやかに新たな委員を互選して定数を満たさなければならない。

第2項 支部は、委員が欠けたときは、すみやかに新たな委員を互選しなければならない。

第6章 会議

第19条(総会)

第1項 総会は本会の最高意思決定機関であり、委員は、代議員として総会に出席する。

第2項 会員は総会を傍聴することができる。

第3項 会長は、年に一度、会計年度の開始から2か月以内に、定期総会を招集する。

第4項 定期総会においては、以下の議案を審議決定する。

- 1 予算の議決(事業計画を含む)及び決算の承認(事業報告を含む)に関する事項
- 2 役員選任、承認に関する事項
- 3 本会則の変更に関する事項
- 4 前3号の他、本会則の規定により総会に付することを要する事項

第5項 会長は、臨時総会を招集することができる。

第6項 委員は、随時、委員総数の3分の1以上の賛成により、会議の目的たる事項及び招集を必要とする理由を記載した書面を会長に提出して臨時総会の招集を請求することができる。

第7項 定期総会臨時総会を問わず、総会招集にあたっては、2週間以上前に、会議の目的、日時、場所を、代議員に通知しなければならない。

第8項 総会の議長は、出席委員の互選によるものとする。

第9項 総会における議決は、本会則に別段の定めがある場合を除いて、出席者の過半数による。但し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第20条(常任委員会)

第1項 常任委員会は、次の事項を審議する。

1 本会の運営に関する事項

2 総会に付する議案に関する事項

3 その他常任委員会において必要と認められた事項

第2項 常任委員会は、年4回以上、会長がこれを招集する。

第3項 会長、副会長及び事務局長は、常任委員会に出席する。

第4項 常任委員会における議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

第21条(部長会)

第1項 部長会は、各部・特別委員会等間の情報伝達及び調整を図る。

第2項 会長、副会長及び事務局長は部長会に出席する。

第3項 部長会は、会長がこれを招集する。

第4項 会長は、部長以外の幹事の出席を要請できる。

第7章 会計

第22条(会計年度)

本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終わる。

第23条(財政)

本会の経費は、入会金、会費、寄付金その他の収入をもってこれにあてる。

第24条(入会金)

正会員は、入会にあたり金3,000円を納めるものとする。

第25条(会費)

正会員は、会費として年額2,500円を納めるものとする。ただし、同期の全員が75歳に達した次の年度からは、会費の納入を免除する。

第8章 改正

第26条(改正)

この会則の改正は、常任委員会において出席した常任委員の3分の2以上の賛成をもって発議し、総会において出席した委員の3分の2以上の賛成をもって議決しなければならない。

付則

第27条(除名)

悪意をもって本会に損害を与えた者は、総会の議を経

て除名される。

第28条（細則等）

本会則に定めのない事項及び本会則の施行についての事項は、常任委員会が定める。

第29条（発効）

本会則は、平成28年5月14日をもって発効する。

なお、この「栄光学園同窓会会則」本則の改訂に伴い、その施行の「細則」及び「関連規程」の改訂について、8月20日の常任委員会で審議された。誌面の都合で、全文を記載することはできないので、「細則」及び「関連規程」改訂の詳細についてはホームページをご覧いただきたいが、主要な改訂点は次の通りである。

「細則」については、従来の「細則」には条文がなく慣例により処理されていた項目を明文化した。例えば、本部各組織の担当職務(細則第3条)などである。

「関連規程」については、総会でご意見のあった「栄光学園同窓会慶弔規程」を現実に即して、明確に分かりやすい条文に改めたほか、『栄光学園同窓会「同期会」に関する規程』と『栄光学園同窓会「支部」に関する規程』の2つを新設した。

『栄光学園同窓会「同期会」に関する規程』では、各期委員と事務局との連携を確実に出来るような条文を定めた。また周年記念同期会補助として、従来の50周年(慶弔規程)のほか、同窓会活性化の観点から、10周年、25周年の開催にも補助金支給ができるよう新たに規定した。

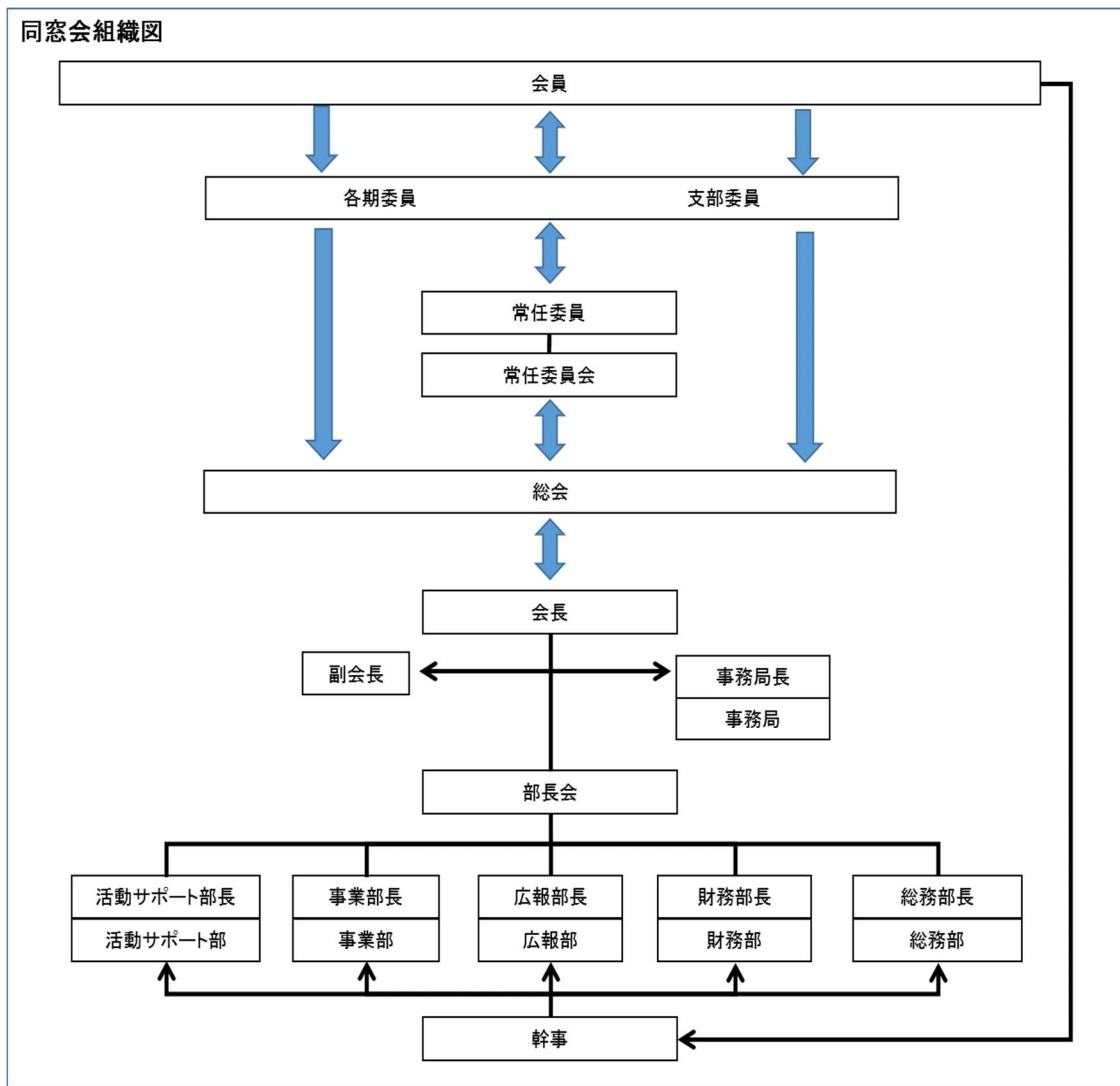
『栄光学園同窓会「支部」に関する規程』では、従来から一部支部より要望のあった支部活動に対する本部からの補助について条文で明確にしてある。

この他の関連規程、「栄光学園同窓会個人情報保護基本規程」「栄光学園同窓会個人情報保護ポリシー」「同窓会の会員情報管理の運用について」及び「イエズス会校同窓会連絡会規程」については、改訂の必要がないので、現在の規程をそのまま残した。

また、この会則の改訂に伴い、同窓会の組織図にも必要な修正を加え、新たに以下の組織図を常任委員会にご報告した。

最後に、本改訂作業にあたって、執行部外から、33期中村稔、43期米村俊彦、47期松崎潤太郎(ネットで参加)、48期川邊賢一郎、の各氏に「会則作業チーム」に加わって頂き、8か月間にわたり積極的に議論に参加して頂いた。改めてお礼申し上げる。

最後に、本改訂作業にあたって、執行部外から、33期中村稔、43期米村俊彦、47期松崎潤太郎(ネットで参加)、48期川邊賢一郎、の各氏に「会則作業チーム」に加わって頂き、8か月間にわたり積極的に議論に参加して頂いた。改めてお礼申し上げる。



同窓会組織図

EACONを使おう(5)

広報部

EACONの用途について、これまでも会報の中で紹介してまいりましたが、そのひとつの重要な用途である「会員の検索」について、プロフィールの項目が改善され、検索の利便性が増しましたのでご紹介します。

会員の検索を行う目的のひとつとして、学生が就職活動中に興味のある業界に栄光の卒業生がいないか調べるといった使い方が想定されます。これまでのEACONであれば、具体的な企業名をキーワードとして入力し、そこに勤務する方を探すという手順が一般的で、あるいは大学の卒業学部学科から探すという方法もあるかも知れません。

EACONでは、この「業界」を17の職業分類として検索する際に選択できる機能を新たに加えました。同時に各個人のプロフィールにおいても、勤務先企業名から職業分類を事前に選択してあります。

これによって、ある職業分類をキーワードとして検索すると、複数の企業に勤めている方の名前が抽出されます。この機能は就職活動ばかりではなく、ビジネスにおいても有効です。

職業分類は以下の通り。

- 製造
- 医療・福祉
- 教育・研究
- 金融・保険
- 公務員・議員
- 団体
- サービス
- マスコミ・出版
- 商社・小売
- 住宅・建設・不動産
- エネルギー・資源・プラント
- IT・通信
- 航空・運輸
- 旅行・エンタメ・フード
- 芸術・文化
- 宗教
- その他

ぜひ、この検索機能を試してみてください。また、ご自身のプロフィールが登録されている職業分類で正しいかも併せてご確認ください。

職業分類

- 製造
- 医療・福祉
- 教育・研究
- 金融・保険
- 公務員・議員
- 団体
- サービス
- マスコミ・出版
- 商社・小売
- 住宅・建設・不動産
- エネルギー・資源・プラント
- IT・通信
- 航空・運輸
- 旅行・エンタメ・フード
- 芸術・文化
- 宗教
- その他

EACONの会員検索メニュー

プロフィール

基本項目 >

学歴・職歴 >

活動その他 >

学歴・職歴

TOP > [ユーザーセンター] > プロフィール > 学歴・職歴

自分からの見え方

職歴

勤務先名 []

勤務先住所 []

勤務先電話番号 []

肩書・業種・職種など []

職業分類 エネルギー・資源・プラント

プロフィールの確認は、「学歴・職歴」の中で職業分類が表示される

内山正樹（9期）

1. 64期卒業式

新校舎の建築が進む中、64期の卒業式が行われました。卒業生代表板部泰之君の「卒業生のことば」の一部を紹介します。

私の栄光学園の第一印象は、広い、でした。それは無論、敷地の物理的な広さとして目に映りましたが、それ以上に、ここに集う人々の心の広さも感じたのを覚えています。

その直感は当たっていたようです。栄光は、多様性に極めて寛容でした。多彩な個性や多彩な経験を尊ぶ学校でした。例えば、御存じのように、栄光には生徒にも先生方にも、多岐に渡る才能の溢れた、変な人が少なくありません。休み時間中、数式と満面の笑みで睨めっこしている者から、一度楽器を握らせれば天下一品の人まで。読む者を唸らせる様な名文の書き手もいれば、目を見張るほど絵の上手い人もいます。現代文化への愛が滲み出すぎている人も数多くいます。縄跳びの上手な数学の先生もいました。しかし自分の才を鼻にかけ、傍若無人な態度をとる輩や、他者の能力を妬んで出る杭を打とうとする輩はいません。それは、互いの個性を尊重し、仲間の優れた点を素直に認められる大らかさの証明ではないでしょうか。

様々な魅力に溢れた仲間たちに囲まれて過ごしたこの六年間は、私にとっては刺激の連続でした。日々の授業の中で、同じ問題に様々な別解を出し合ったこと、廊下の雑談を通して、全く知らなかった分野に目を開かされたこと、また文化祭・体育祭・部活動等で仲間の考え方と真っ向からぶつかり合ったこと。一つ一つの経験が、我々の視野を大きく広げていきました。

多様性を大切にする、という文言は、ともすれば巷に溢れる陳腐なキャッチコピーのように響きます。しかし、蓋しその実現は簡単ではありません。仲間の優れた点を互いに認め合い、称え合い、時に羨ましさを前向きに進む原動力としながらも、嫉んだり僻んだりして成長を自ら停滞させることなく、切磋琢磨できる素直さが必要だからです。一方で多様性尊重と称して、誰もが自分勝手に振る舞い、他者に無関心になる、あるいは表面上の付き合いだけで済ませ、理解し合うのを避けるようでは、それもまた社会として機能しません。皆それぞれが、和気藹藹としながらも刺激合って自己研鑽し合い、この居場所を心地よくする努力を意識的に、あるいは無意識に為さなければ、本当に多様性を尊重した環境をつくることはできないのです。

2010年からのこの6年で、我々を取り巻く環境は大きく変わりました。社会の様相も、また栄光学園も、大きな転機を迎えているのかもしれませんが。私たちの慣れ親しんだ校舎は、跡形もない更地になりました。来月には70期を迎え、新校舎もいよいよ姿を現すことでしょう。我々も新天地へ、それぞれの一步を踏み出します。

自分をとりまく世界が変わってしまうのも、自分自身が変わっていくことも怖いことです。しかし、変化は過去を否定しません。畢竟現在は常に、過去の上に成り立っているのです。栄光学園の精神もまた、校舎が無くなっても仮校舎に、新校舎に、そしてここで育ち、ここを巣立っていく我々の心に受け継がれていくことでしょう。いつでも私たちは、懐かしい母校、栄光学園を、甘酸っぱい青春の追憶の中に想い起こし、真っ直ぐ歩き続けるための道標、星の光とするでしょう。

2. 科学の甲子園大会 総合準優勝！

前号で科学の甲子園神奈川県大会優勝をお知らせしましたが、県の代表として3月に茨城県で行われた第5回全国大会に8名で出場し、総合準優勝を飾りました。筆記競技、実技競技、総合競技が3日間に亘って行われましたが、リーダーを務めた上田邦博君（65期）のレポートを紹介します。

今回は僕にとって二回目の科学の甲子園でした。先輩に引っぱり張られた昨年でしたが、今年はリーダーとして引っ張っていくことになりました。リーダーとして効率のいい計画を立てたり、うまくメンバーをまとめたりできたかは微妙でしたが、メンバーや、協力してくれた皆さんのおかげで全国2位という栄光の最高記録を更新する成績を残すことができました。

僕が出場した競技は2日目の筆記競技と3日目の総合競技です。競技の内容は多分誰かが書いていると思うので省略します。

2日目の筆記競技では、情報分野の問題を担当しました。何度も筆記競技の練習をしていたので、緊張することなく全力で解くことができました。メンバーでひとりしか情報を担当してないので、わけがわからなかったらどうしようかと思っていましたが、解けて良かったです。

3日目の総合競技では、送信器と受信機を作るのと予選は楽しく落ち着いてできました。楽しくできるのはいいことだと思います。決勝では緊張してしまい、決勝に進出した8チームの進行具合が表示される、会場の前の方にあるスクリーンが気になってしまい、自分たちの作業に集中する事ができず、そのせいで、失敗して総合競技で一位をとる事ができませんでした。実は、去年も同じようなミスをしていたのですが、今年は1位を狙える記録を練習で出していたので、4位という結果になってしまったのはとても悔しいです。

結果として、総合2位というすばらしい成績を残すことがで

きました。表彰式でメダルをもらうのは初めてだったので、とてもうれしかったです。銀色でしたが、とてもずっしりしていました。家宝にします。2位になることができたのは、最後まで協力して準備してくれたメンバーの皆さんや塚本先生、神奈川県大会に参加した皆さん、メンバーの選抜や指導をくださった先輩方をはじめ、科学の甲子園のために協力くださった皆さんがいたからこそです。ありがとうございました。

3. 65期沖縄修学旅行

高校の沖縄修学旅行が3泊4日で4月に行われました。

1日目－平和講話、2日目－平和学習、3日目・4日目－選択コース(自然観察、体験、地元交流)で旅行委員により企画されましたが、講演と平和学習の感想文を紹介します。

安里さんの講演を聞いて 高橋 猛 君(65期)

修学旅行初日。自由行動の後に県立博物館に集まった私たちは、沖縄戦経験者の安里さんによる講演を聞きました。良く考えてみると、僕は戦争体験者のお話を聞くのは今回が初めてで、どのような講演であるのか想像がつかない面も多少ありました。正直に言うと、90歳を超える安里さんの話を全てしっかりと聞きとれるだろうか心配していましたが、これは杞憂に終わり、安里さんの話は非常に聞き易かったです。ただ、安里さんはこの講演のために相当無理をしていらした様で、それにも関わらず、丁寧にお話し頂いたことは本当にありがたいことだと思います。

講演では、気さくに僕たちに話しかけて頂いたこともあった一方で、安里さんが涙を浮かべる場面もありました。この時、戦争での体験を語るということが、戦争を経験された方にとってどれほどつらいものであるかということが、ひしひしと伝わってきました。そのつらさをこらえてまで、話をしている裏にある思いを僕達は重く、しっかりと受け止めるべきだと思います。単なる史実を見つめることのみならず、実際に戦争を経験された方の話を聞く重要性はこういったところにあるのだろうと僕は今回感じました。

降りしきる砲弾。ガマの中での過酷な食糧事情や、現代では想像もできない衛生環境の悪さ。道やガマに転がる死体とそれに群がるハエ。日本兵による沖縄の住民への迫害や虐殺。家族を奪われる悲しみ。今回の安里さんの講演と、その事前学習や実際に安里さんが避難したガマ(轟壕)への訪問などで、沖縄戦がどれほど悲惨なものであったか、一部分ではあるけれども、僕達は知ることができました。それを知った上でどうするのか、ということが非常に大切であると思います。少なくとも、僕はそのような悲惨な経験を決してしたくないと、単純に、でも強く、そう思いました。

平和学習やそれに関連することを直ぐにしらじらしいなどという人がいます。しかし、その様なことを言う人で、安里

さんが経験した様な悲惨な環境に身を投じたいなどという人はいるでしょうか。

しかし、戦争というのはそのような環境を生み出してしまふ。そのことを僕達に気づいてほしいという想いで、心身ともにつらい思いをしながらも安里さんは講演をして頂いたのだと思います。だから先述のように僕達はその思いを真摯に受け止めて忘れてはならないと思うのです。なぜなら、あのような悲惨な経験は誰もがしたくないであろうから。

体調のすぐれない中、僕達のために講演をして頂いた安里さんや今回の講演の手助けをくださった方々への感謝を述べて締めくくりたいと思います。本当にありがとうございました。

平和学習 久保 貴裕 君(65期)

2日目はクラス毎にバスに乗って一日中平和学習をしました。自分のクラスには太田光さんというボランティアで平和について伝えることをしている方がついてくださいました。

2日目を通して最も印象的だったことは、この日の一番初めに、前日お話を聞いた安里さんが実際に沖縄戦の時に避難していた“轟の壕”というところに行ったことでした。事前学習で中の様子を聞いたり読んだり写真で見たりということはありましたが、実際に行ってみると想像以上に過酷な場所でした。入り口は狭く、中は岩でゴツゴツしていて泥が多く、また、ライトがなければ全く見えないのでとても人が生活していけるような場所ではないと思いました。

他にも、白梅の塔、ひめゆりの塔、沖縄戦跡国定公園の平和の礎を巡りながらたくさんのお話を聞きました。一般に言われているような沖縄戦よりも、深いお話を聞き、戦争を経験した人各一人一人に壮絶な経験があることを知りました。

その後に沖縄国際大学に行き、沖縄戦から現在まで続く基地問題についての講義を受け、それについての意見交換をしました。この日一日を通して、沖縄戦についてとても深いことを学びました。そこで語られることのほとんどがつらく、悲しいものだったので心が痛くなることもたくさんありましたが、この経験は沖縄戦に限らず戦争や平和について多くのことを考えさせられたとても良いものであったと思います。

4. 加藤旭君追悼式

前号で紹介した「脳腫瘍と闘う少年音楽家加藤旭君(66期)」が5月に亡くなられました。日本テレビの「24時間テレビ」でも脳腫瘍と闘いながら作曲活動を続け16歳で亡くなった天才作曲家として紹介されましたが、学園の追悼式が6月に大講堂で行われています。当日の望月伸一郎校長のことは紹介します。

今日、私たちは、先月の20日になくなった高2C組の加

藤旭くんを追悼するために集まっています。この講堂には、加藤君のお母さまもいらしてくださっています。

追悼式を始めるにあたり、まず最初に、皆さんで、加藤君の冥福を祈りながら黙祷をしたいと思います。

その場で姿勢を正してください。(黙祷)

皆さんも知っている通り、加藤君は3年前の中学二年生のときに、脳腫瘍を発症し、入退院を繰り返しながら療養をしてきました。大きな手術を幾度もうけ、また抗ガン剤による治療も続きました。肉体的・精神的な痛みや苦しみはどれほど大きかったことでしょうか。しかし、加藤君と接したことのある人たちはみな同じだったと思いますが、私たちはそんな苦しみの中にいるはずの加藤君と会うたびに、いつも逆に明るい気持ちになり、自分も一生懸命にがんばろう、という思いに、自然になっていきました。私自身も、病院で、ご自宅で、学校で、加藤君と話をするたびに、自分が前向きな気持ちになっていたことを感じていました。それは、加藤君が自分自身の中で、痛みや苦しみを、逆に、友だちや周りの人々、そして特に同じような難病と共に生きている人々に対する、思いやりや愛情に変化させていたからではないか、と思います。周りの誰もが、いつしか加藤君に励まされていました。そして、今も励まされています。

私たちがよく知っているmen for othersという言葉も、加藤君は自分の生き方を通じて、今も私たちに示してくれています。

今日の追悼式は、そんな加藤君の思いが詰まった音楽作品を、仲間の人たちが演奏してくれます。ここに集まった私たちすべてが、今日の追悼式への参加を通じて、加藤君の思いをしっかりと受けとめ、そしてその思いにこれからの私たちを重ねて歩んでいくことができる、そのような集まりにしたいと思います。

加藤旭君よ、永遠なれ

島崎裕之（26期）

脳腫瘍と闘う少年音楽家 加藤旭君(66期・高二)が逝去された。残念である。16歳という若さ、本人もさぞかし無念だっただろう。

中学二年での発病から3年にもわたる闘病生活。昨年5月末に幼いころからの作品を収録したCD『光のこうしん』を発売した。私は今年の栄光祭で、旭君とご両親にお会いした。お母様から「バドミントン部の大先輩よ！」と紹介され、私はとっさに「是非病気を克服して、またコートに戻ってください」と、応えた。目の前の旭君は、可倒式のベッドに横たわり、無表情。すでに視力も失っていたのだ。

ところがその後体調が回復。昨年11月の銀座ヤマハホー

ルでの公演では、車いすから元気に拍手を送る旭君の姿があった。このころ新作『Ray of right～一筋の希望』『船旅』を作曲。「奇跡が起こった」と感じたものである。しかし今年の年明けから再び体調が悪化、入退院を繰り返した。そしてセカンドアルバム『光のみずうみ』の制作を完了し、前述の『船旅』を聴きながら「じゃあ行くね」と旅立ったとお母様から聞いている。

本号に『学園通信より』に掲載の望月校長の話のとおり、彼は『men for others～人のためであれ』そのものである。しかし旭君は自ら『誰かのために役に立ちたい』であった。



加藤旭君 2枚目のCD

昨年春に『余命3ヵ月』と宣言されていたと、お母様 希さんから聞いた。しかしそれから1年2ヶ月も頑張ったのだ。闘病の苦しみの中で前向きに生き、他者に勇気と元気すら与え続けた旭君。天使となった今も永遠に生き続けるであろう。

PS. 月命日の6月20日に、66期生一同のプロデュースで学園での追悼式が執り行われました。同窓会ホームページに学園通信『加藤旭君追悼式』を転載しております。是非ご一読ください。

恩師のこと

熊の子会の終焉

細矢治夫・新井雅夫（3期）

熊の子会発足と第1回熊の子会については2005年10月20日発行のALUMNI No.64で紹介したが、誠に残念ながら閉幕せざるを得なくなった。ここにその事情を報告する。

熊の子会は昭和25年度中2C組のクラス会である。熊野忠敬先生が昭和24年3月、栄光学園に奉職された翌年初めて担任されたのがこのクラスで、校庭での記念写真ではフォス校長、ヘルヴェック副校長、熊野担任を40名の生徒が元気よく囲んでいる。これ等の生徒達が平成15年に熊野先生を囲んで熊の子会を結成した。(於横浜青葉台のホテル、青葉台フォーラム)。その内訳も、3期卒23名、同物故者5名、4期卒3名、転校生6名、同物故者2名、同消息不明者1名。

最初の2年は、細矢治夫(中2C組級長)、新井雅夫、伊東清行、故稲葉高久で幹事を担当していたが、その後は残りの者も持ち回りで幹事をやるようになり、更に熊野先生誕生の10月にも幹事だけで熊野先生誕生会を開くようになった。(於青葉台のレストラン、テンドーレ)。

3期卒ではない人達も含めて栄光を懐かしく思い、また熊野先生のお人柄に惹かれてこの二つの会に出席するだ



熊の子会(平成28年4月17日)

けでなく、プライベートでゴルフ、麻雀、はたまた海外旅行等で一緒に交遊するなど、栄光はおろか世間一般でも極めて珍しいのではなかろうか。平成28年4月17日(日)に開かれた第13回(最終回)の熊の子会の出席者は先生も含めて10名と少なかつたが、その3分の1が3期卒以外の者だったことを特記しておく。

熊野先生の半生については上記二つの会を通じて色々お話を伺った。開幕に当たりそれを纏めさせて頂くのは意義のあることと思うので、御長男の熊野睦彦氏(19期)からお聞きしたことも含めてここに紹介する。

熊野先生は昭和2年10月26日、福岡県遠賀郡水巻町で御誕生。厳父は若い頃は警察官、その後は司法書士、信用金庫理事、工場経営など色々やられた。熊野先生は長じて今でいう進学校の東筑中学に進まれたが、小柄ながら喧

嘩が強かった。お兄さんから助っ人として借り出されているうちに何時しか“木刀の忠ちゃん”と綽名されたほど。

東筑中学4年生(15歳)の時三重海軍航空隊の予科練に入隊。2年後上海海軍航空隊に配属。艦上爆撃機“彗星”の教官パイロットに。終戦直後、軍部解体までの一時期高知の海軍航空隊に転属。“彗星”も特攻機に使われていたので、教官という身分が先生の一命を助けた。

昭和21年4月、日体大社会体育科に入学。優れた競技記録を色々お持ちだが、第3回福岡国体での床体操優勝が最高位。奥さまは日体大の同級生。2男2女を得て円満な家庭生活。

御長男と御次男はいずれも栄光生(19期と25期)。息子を誰一人として栄光に入れられなかった3期生から見たらは大変まぶしいことである。御長男は日本鋼管へ勤務。現在は趣味のテニスを楽しんでおられる。一方御次男は東大教授文学部長(倫理学科)である。

先生は新卒として昭和24年3月栄光学園へ奉職。同期奉職は森本先生(社会)、向井先生(英語)、堀口先生(数学)、人見先生(国語)。同じ新卒として熊野先生の親友であった堀口先生はその年の夏休みに河口湖で遊泳中に急死された。

後年、栄光の創立以来不動の訓育主任であったシュトルテ先生の後任として60才で定年を迎えるまでその重責を果たされた。

先生の隠された御趣味は音楽で、奥さまやお子さん達とよく「ともしび」、「トロイカ」、「雪の降る街を」を愛唱されていたという。マンドリンと尺八の演奏がお得意で、退職されてからはこれにフルートが加わった。

さて、そろそろ最終回熊の子会の報告に入ろう。この会は最初から熊野先生を囲むクラス会として発足したが、熊野先生も昨年10月で米寿を迎えられた。会が自然消滅するのは余りにも淋しく、熊野先生の御出席が難しくなる前に、また、生徒達にもまだまだ元気さが残っているうちに開幕を計ろうという方向性が第11回熊の子会が出された。先生の御高齢問題だけではなく我等も今年の誕生日で傘寿を迎える。既に第1回から今日までに徳江陸(中2C組副級長)、大塚慎一郎、稲葉高久、青池博、相川一博、鈴木成一の6名が亡くなっている。その都度、熊の子会の冒頭で黙祷を捧げてきたが、この際改めて御冥福をお祈りしたい。

2、3年前までは、熊の子会は約7割、誕生会は約8割の高出席率であつたが、最終回は種々の事情から4名の直前欠席者が出て、残念ながら数の上では淋しいものになって

しまった。出席者は、青木誠孝、赤穂幸男、新井雅夫、伊東清行、加倉井孝臣、(久保敬一)、島崎典彦、野崎 襄、細矢治夫、松野文夫。久保は最寄りの駅まで来たものの当日の強風のため交通手段が遮断され結局出席を諦めて帰宅。これだけは如何ともし難い不可抗力。本人もさぞかし無念だったと思うので括弧付きで名前を記録に留めておくことにする。

2年前から熊野先生はお二人の娘さんに付き添われて会に来られていた。今回もお二人の付き添いだったが、先生は車椅子。勿論このようなことは初めて。このところ体調が思わしくなく、前日まで寝たきりにしておられた由。「どうしても一寸でも出たいと言うので連れて来ましたが、記念写真だけ撮って頂いたら直ぐ連れて帰りたい。」とのこと。それではということで、島崎典彦に乾杯の音頭をとって貰って乾杯。先生にも赤ワインで御唱和頂いた。そして簡単なご挨拶も。花屋に電話で事情を説明し、頼んでおいた花束を特急で作って貰いそれを先生に抱いて頂いて記念撮影。名残惜しさを越えた何とも形容し難い感情の下に全員で先生の御退席をお見送りした。

熊野先生もおられず、また人数も少ないので、2卓予定のテーブルも1卓に纏めての昼食懇親会ということになった。残念ながら熊野先生を囲んでの賑やかな解散式にはならなかったが、皆良く喋り非常に楽しい生涯思い出の会になった。

通常はそのようなことはやらないが、今回は特別ということで幹事OB全員宛にメールで簡単な報告を行った。広瀬徹也から「熊野先生も力を絞って駆けつけられた御様子、感動的です。参加できなくて残念に思うとともに、出席された皆さんに感謝いたします」と。また、この日熊野先生への花束贈呈の役割を予定されていた加瀬英明(熊の子会の命名者)からは「突然の体調不良のため大役を果たせず残念至極。」との返信があつた。熊の子会では誰が3期卒で誰がそうではないとの言葉はタブーであつた。然し、最後に敢えてその禁を破ると、この会の命名者自身が転校生である。

ところが、二月後の6月19日(日)に睦彦氏から「父死す。」の連絡が入った。最後の熊の子会の直後入院されたのだが、間もなく退院され、自宅療養を続けておられるのを聞き、熊野先生の更なる御長寿と御多幸をお祈りしていた矢先のことである。

でも、「最愛の妻と娘2人に最後まで看取って貰い、最後の最後まで幸せな人生でした。」という睦彦氏の御報告に我々としても辛うじて持ち堪えることができた。二月前の先生の笑顔に接することができたのが、熊の子達の何よりの慰めである。

6月24日(金)にはお通夜が、25日(土)には告別式が大和市の千代田つきみ野ホールに於いて音楽が優しく流れる中で執り行われた。

細矢が弔辞を納めさせて頂いた。また、熊の子会員の会葬者は次の通り。赤穂幸男・新井雅夫・伊東清行・(加瀬英明)・久保敬一・島崎典彦・田中英雄・野崎 襄・広瀬徹也・(細川 湊)・細矢治夫・三神喜信・松野文夫・棟居勇。加瀬は個人名による献花でのお別れ。長年の病の細川はお悔やみの言葉を添えて睦彦氏にお花料をお送りした。

熊野先生は栄光に奉職されてから奥さまと御一緒に受洗された。さがみ野霊園の墓碑には、「朝まだきわが心神をあこがれてめざむ」との一番お好きな朝の祈りの一節が刻まれている。

最後に、この熊の子会が開かれるきっかけとなったあるできごとを紹介したい。新井が64才で仕事を辞めて自宅近くに歯科医を見つける必要に迫られた時、どうせならと栄光同窓会会員名簿の広告で見た石曾根歯科に決めた。石曾根 肇氏は睦彦氏と同じ19期生。ここである日突然、石曾根医師から「熊野先生ですよ。」と引き合わされた。新井は海外駐在3回、大阪勤務2回であつたため社会人になってから殆ど3期同期会に出席するチャンスがなく、熊野先生にお会いしたのは栄光卒業後全くの初めて。正直仰天した。しかし、これが熊の子会発足のきっかけになったのだから、人生はドラマだと言つても過言ではない。

睦彦氏は熊野先生同様、長年石曾根歯科の患者さん。新井はここで何回か彼とも顔を合わせている。また彼は、2年前奥さまを亡くされて御長女夫妻と入れ替わるまでは御両親と二世帯住宅。その当時は熊野先生がたまたま入院された時など、新井に電話で病状を知らせるなど熊の子会への気配りをして下さつた。

上記のような事情があつたので、熊の子会終焉のこの際一度懇親をということになり、7月28日(木)、テンドーレで16という年代差を越えて4人で積る話に花を咲かせた。

F・アルカラ先生の近況

佐々木康浩 (29期)

僕らの代は中学2年から高校3年まで、アルカラ先生に英語と未信者の聖書研究会などを指導いただきました。

聖書研究会では、清泉女学院との合同宗教研究会や横浜教区の中高生会合宿等への参加、軽井沢旅行やイエズス会上石神井神学院での黙想会、長崎巡礼(中3)などなど、スペイン人神父らしく、様々な体験と出会いを経験させていただきました。

栄光学園から離れた後は17年間、山口県で幼稚園の園長や教会の主任司祭などをされていました。

2012年10月には、20期から42期まで、また母の会をはじめとしたゆかりの方々に四ツ谷にお集まりいただき、金祝

(司祭叙階50周年のお祝い)をいたしました。

その後、2014年4月に体調悪化のため山口を離れて東京の病院に入院され、現在は、練馬区上石神井にあるロヨラハウスで静養されておられます。

僕は、2016年7月に、アルカラ先生と面会してきました。車椅子での移動ですが、お元気そうでした。その際の写真を掲載いたします。



F. アルカラ先生(2016年7月)

アルカラ先生との面会をご希望される場合は、ロヨラハウスの事務室の方にご相談ください。

僕も、ときどき訪ねております。昔話ばかりになりますが、以前と変わらぬ陽気で明るいアルカラ先生との会話が楽しみです。

小池登明治先生勤続35周年記念祝賀会開催

渡辺 潮 (37期)

過日7月17日、栄光学園体育科 小池登明治先生の勤続35周年記念祝賀会を、横須賀セントラルホテルにて開催いたしました。

同会は1996年に開催した勤続15周年記念祝賀会をきっかけとしてスタートし、5年毎に開催するようになりました。今回で5回目の開催となります。当時は同窓会事務局の方にお世話になり、印刷物や郵便を主体としてOBへの連絡をとっていましたが、最近ではメールやSNSでの連絡が主体となってきたことに、時代の流れを感じます(EACONのイベントも活用させて頂きました)。

本祝賀会の母体はトメジ先生(いつもの呼び方にさせていただきます)が現在でも顧問を勤めていらっしゃるバスケット部OBを中心とし、『祝賀会』と銘打っておきながら、半分以上が同窓会や、バスケット部の縦のつながりの場となっていることは否めません。ただ、単なる同窓会よりも「恩師祝賀会」という建前があるため、当日をめぐって日本全国に赴任勤務されている卒業生が集まって来ていただける良い口実にもなっております(笑)。海外赴任中のOBからは文章・ビデオなどのメッセージもございました。

OB有志で続けているバスケットボールチーム TJ KICKS ともコラボレーションしたこともございます。

当初は各期代表の祝辞を頂きながら、思い出話等に話を映かせた形の開催でしたが、最近では卒業生自作のスライドショーなどを通じて、先生の過去(少年時代)～現在に至るまで様子を映像にしたり、最近の学園での様子などを映像にしたりしています。逆に参加できないOBからのメッセージを映像化したりもしています。

トメジ先生は36期が中学1年生の時、校舎外壁がまだ煉



トメジ先生を囲んで(2016年7月17日)

瓦タイル調の栄光学園に赴任されました。当時高校2年生だった32期の先輩方は、日体大卒業の先生に色々な意味で衝撃を受けたそうです。

また当時はもう一人、英語科に小池正克先生がいらっしゃった都合もあり、「小池先生」ではなく「とめじ先生」と呼ばれていらっしゃいました。(一部生徒の中では、『良い小池先生』と『悪い小池先生』と区別されていたようです(笑)。どちらが『良い』のかは皆様のご想像にお任せします(笑))

当然のことながら、祝賀会招集対象学年数は毎年増えており、今回の祝賀会は32～64期と、全33学年にわたる約500名のバスケット部OBでした。15周年当初は約70名でお祝いさせていただきましたが、ここ数回は100余名のOBにご出席をいただいております。もちろん、卒業したてのOBはノンアルコールで(笑)。

この35年、大船校舎の外観は煉瓦調からグレー調へ、そして来年はいよいよハイブリッド工法の新校舎へ生まれ変わる中、世間では目には見えない人間自身の多様化が謳われており、生徒への教育方法も変わっている気がします。そんな中、33学年に跨る卒業生がある共通点をもとに、卒業後も一か所に集まり、ひとつの事に没頭できる、という意味では、当校には『変わらぬ教育』もしっかり根付いている証なのではないか、と感じました。

この場をお借りし、当日出席くださった、また欠席ながらも記念品賛同やメッセージをくださった32～64期のバスケット部OBの方々に御礼申し上げます。

OB便り

青ヶ島紀行

池添博彦 (8期)



青ヶ島にて

青ヶ島の名を知ったのは中学生の時である。我家に電話が付いたのでどこか遠くに掛けてみようと思い、地図を調べたら八丈島の南に青ヶ島があった。交換手に訊いたら、その島には電話機がないので繋げないと言われた。

伊豆七島と呼ぶ大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島が北から南に並び、その南に青ヶ島がある。更にかなり南に鳥島や小笠原諸島がある。

新島と式根島は繋がった一つの島であったが、江戸時代の大地震で二つに離れてしまった。八丈の傍らにある八丈小島には昭和44年まで住民がいた。そのため大島から青ヶ島まで全部で10島であり、伊豆七島は正しい呼称ではない。現在は伊豆諸島が正式呼称であり、七島会館と七島青年大会は島嶼会館、島嶼青年大会に変更された。行政上は東京都である。

大島から神津島は、東京や伊豆下田から船が毎日多く出ているが、三宅、御蔵、八丈には東京から大型船が毎日1回出航するだけである。青ヶ島には八丈から村営フェリーが連絡する。

青ヶ島は東京より360 km、八丈より80 kmあり、連絡船は週に5日の予定であるが、少し風が吹くと突堤一つだけの島には着けず、船は八丈から出航しない。1月は4日、2月は7日しかフェリーは青ヶ島に行かなかった。

私は3月に訪れたが、少し波が高く、条件付きで船は八丈を出発した。波止場の状況によってはそのまま戻るとのことである。何日か欠航が続いていたので、小型の船には生活物資が多く積まれていた。客は島へ帰る人と、東京のレストランで働くインド人と私の3人である。

2時間半で青ヶ島に着いた。波が高く栈橋がかなり揺れるので、降りるのに苦労した。宿が少ないので予約が必要であり、帰りも天候次第なので、余裕をもって来島するようにと注意されていた。海が荒れると1週間以上も船が着かないことがあるらしい。

波止場に警察官がいた。私は1週間位泊まると予定を告げた。彼はインド人と言葉が通ぜずに困っていたので、通訳してあげた。インド人は宿の予約もなく、明日帰る予定だという。土、日は船が休みであり、平日でも波の状態では来ないことが多い。生憎、明日は天候が悪く欠航の予定だし、その次は土、日で、少なくとも4日間は帰れないだろうと告げた。インド人は休みを2日しかとっていないとの事で、暫らく考えていたが、残念ながら折り返しの船で戻っていった。

島の周りは200 m程の崖が続いている。切り立った崖はそのまま海となり、浜といったものは見当たらない。「とり着く島がない」という言い回しがぴったりの島である。

島はほぼ菱形に近く、南北の長径が4 km、東西3 kmであり、広さは6 km²である。船は南側の三宝港に着いた。港とはいっても、50 m程の波止場が突き出ているだけである。僅かに大三宝、小三宝と呼ぶ立岩が崖から海に続いており、波除けの形になっている。

船着場の前面は見上げるような崖が大壁のように立ちはだかっている。崖の左手には上部から刮(コソ)げ落ちた崩落跡があり、道路がそこで寸断されていた。

崖下はコンクリートで固めたプラットフォームと波除けの壁が、まるで要塞のように見える。プラットフォームの上の狭い棚に漁船が5艘載っている。大岩からケーブルが棚まで伸びており、漁をするときは船を吊って海上に降ろすらしい。高い波があるので、相当上部に置かないと、船が壊れてしまう。の周りは海でも年に数日しか漁はできず、余所からくる大型漁船に獲物を攫われてしまう。

島の大半は大噴火のため、深いカルデラになっている。直径は2 kmの円形で、垂直の壁が取り巻いている。壁の高さは北側200 m、南側はやや低く100 m程である。

元は中に池があったが、天明期の大噴火で消滅し、カルデラの中央に高さ50 mの新たな墳丘と火口を生じた。今でも僅かに水蒸気を噴出しており、火口は径200 mの凹部になっている。

噴火以前はカルデラ内部に村があったが、噴火が続いたので今は畠だけであり、村はカルデラの外の北側の傾斜地にある。

波止場から村へ行くために、外輪山を突き抜けカルデラに至る、505 mの青宝トンネルがある。トンネルは掘り抜きの岩のままで、かなりの傾斜になっている。カルデラを廻った反対側に平成流し坂と呼ぶ急坂があり、崖を越えて村に続く道となる。

青ヶ島は日本で一番小さな村で人口は167人、111世帯である。小学生12人、中学生5人で、この5年間で人口は50人減少している。

島と大半を占めるカルデラは少し南に偏っており、北側の縁が高くなっている。最高地の大凸部(オオトンプ)423 mに立つと、島全体が見渡せる。深く窪んだ火口原の真中に、天明期の大噴火で盛り上がった内輪山(火口)がある。

噴火から230年経ており、全体が樹木に覆われている。台形の火口丘は縦に幾筋も木が伐られ、縞状の処に椿が植えられている。椿は利島から移したもので、虎刈りのように木を残したのは、椿の幼木を風から護るためである。大島の隣りの利島は全山に椿が植えられており、椿油の生産では日本一である。

火口丘の西側には草木の無い「ひんぎゃ」(火の際の意)とよぶ岩場がある。噴気孔が点在し、蒸気を用いた村営サウナと、地熱により海水からヒンギヤの塩をつくる施設がある。

村は外輪山の縁から北に続く斜面にある。西郷(ニシゴウ)、

休戸郷(ヤスンド)、岡部の3地区に分かれており、道はカルデラから村を抜けて、外輪山の海側の崖を巡り、船着場まで下っていく。道は海岸近くで崖崩れのため、通行止めになっているが、歩いてみると、崖からの落石がかなり路上にあり、危なそうである。もっとも殆どの人は車を使うので、落石に当たる確率は小さいのかも知れない。

崖はかなり以前に崩れたので、反対側に続く道を作ったが、これも海に至る直前の処で崩れたため、工事は放棄されていた。

落石を防ぐため、擁壁づくりが盛んに行われている。遙か上からロープで体を支えて、コンクリート打ちや吹きつけ作業をする人が見えた。最終的には道の上側の崖を総てコンクリートで固めてしまわうらしいが、小さな島にしては大掛かりな工事である。伊豆諸島が東京都の管轄なので、予算が潤沢に出るらしい。

村の中央に、少ない生徒数にしては立派な小中学校が建っている。斜面の下方から眺めると城郭のように見える。隣りに村役場と図書館があり、保育園、集会所、診療所を兼ねた建物が並んでいる。公共施設としてはその他に発電所と水道施設がある。

小学校の南側にある尾山展望台(400 m)のすぐ下の斜面を長さ200 m、幅100 mコンクリートで固め、流れる雨水を大きな水槽に集めている。これを濾過して水源としている。

発電は船で運ばれてくる重油を用いている。村に電気がついたのは、昭和34年に学校に灯ったのが初めてである。発電機によるものであったが、昭和41年に発電所ができ、1日6時間の送電で、TVが見えるようになった。

映画は昭和25年発電機による無声映画「ターザン」が初めてであり、30年にはトーキーの「山びこ学校」を学校で上映した。生徒はこれを5、6回見た後に、やっと映画というもの理解したという。

同じ年に社会党の山口シズエさんより自転車一台贈られた。自転車第1号である。電話は昭和31年に無線電話が役場に設置された。青ヶ島はこの年の7月に行われた参院選挙まで、日本で唯一選挙権を行使できない村であった。有効な交通手段が無いためである。

店は雑貨店の十一屋(トイチヤ)があり、食料品と生活用品を扱っている。店主は東京から暖簾分けして島に来た人である。店名は一割の利子を得た質店に由来していると思われる。

その他には土木工事で働く人のために、酒を提供する小屋のようなものが2軒あった。島には働き口が少ないため、昭和30年より、失対事業として道路の補修を主とした土木工事が行われている。そのため従来行われていた畠の手伝い、船づくりや家の新築、屋根の葺き替え、牛舎や炭窯づくりなどにみられた村人同士の無償の助け合い「みまい」の習慣は無くなってしまった。

店は一軒だけで不便であるが、住民の多くはかなりの量の必需品をフェリーに頼んで購入している。以前は年に数回しか船が訪れなかった。今も海の荒れる時期は数週間も船が来ないので、備蓄しておくのが習慣になっている。

人口は天明3年(1783)に340人であったが、大噴火で130人亡くなり、他は八丈島に疎開した。文化14年(1817)名主次郎太夫により青ヶ島への帰還が計画され20人が先遣隊として渡り、その後全員が島へ戻って天保6年(1835)には241人に増えた。

以後明治5年653人、9年697人となり、大正4年(1915)には750人と増加したが、昭和25年400人、36年350人、53年198人と減り、現在は167人である。減少理由は交通が不便なこと、産業や働き口の無いことおよび高校が無いことである。

小学生は12人で1、4年生はいない。中学生は5人で、1年2人、3年3人で2年生はいない。子の誕生は珍しい。駐在さんの奥さんが妊娠しているが、転勤の予定があるので期待できそうもない。駐在や教員は2~3年で替っている。

村の生活は長い間外部と隔絶した状態であったが、年に1、2回の連絡船だったものが昭和初期から数回に増えたこと、昭和19年より山梨や長野に2年近く疎開していた100名近い島民が、内地の生活を体験して戻ってきたこと、また戦時中、島の守備のため陸海軍1個小隊が島に駐屯したことなどが、島民の意識と生活様式に影響を与え、伝統的な島の暮らしに変化が見られるようになった。

島には特有の方言がみられた。今はTVなどの影響で使われない語も多くなっているが、そのいくつかを列挙してみる。

ドンゴ(馬鹿)、オンガシ(青ヶ島)、オモウワヨ(さようなら)、オウ(ハイ)、カンモ(薩摩芋)、ゴラゴラ(早く)、ヘンドウ(おかしな)、ヘベラ(服)、ヨ(魚)、ヨンバリ(小便)、カム(食べる)、キンチメ(お化け)、ヘダカ(背中)、ソウグ(叱る)、シャガ(白毛)、ヨウケ(夕食)、アサケ(朝食)、ヒョウラカム(昼食を食べる)、キネイ(昨日)、ウッセイ(一昨日)、シニイキデ(一所懸命)、バメ(雌)、ジョク(雄)、シャンメ(虱)、ヤメロワ(痛い)、ヤロゴン(やろう)、ヘイメ(蠅)、チューチューメ(雀)、ケーロメ(蛙)、ノオンメ(蚤)、ヒヤシメ(蟻)、ケイビョウメ(蜥蜴)、アダンシトウ(どうしたの)、カキジャル(ゴキブリ)、クッコーシ(蟬)、ジョンジョンペイテ(びしょびしょになって)、デイチケ(美しい)、ホッチキ(本当に)、ネッコケ(小さい)、ヨッキヤ(良い)、ワルキヤ(悪い)、シツカリ(沢山)、テツツモ(少しも)、デイチイ(綺麗な)、ヨソオースル(手伝う)、ホオードノ(母)、ズニン(流人)、ボオーク(大きく)、マンモ(今も)、ホントーダラ(本当だ)、イキンナ(行かない)、カミンナカ(食べない)

ヨウケ、アサケのケは食物を示す古語のケであり、シニイ

キデは死に生きで、死んだつもりで励むこと、ドンゴは鈍根(ドンゴン)で能力の劣ることである。お化けを示すキンチメの話は、他人に対する尊称の「貴むち」に蔑称のメをつけたものである。貴むちの語も初めは尊称であったが、次第に同輩を指す語となった。

その他ドーソク(ローソク)、ヂコウ(利巧)、デーネン(来年)のようにラ行音がダ行音になったり、ジョーリ(草履)、ジャル(箆)、ミジヨ(溝)のようにザ行音が拗音化したり、シャンメ(虱)、ショバナ(潮花:海水)、ニヤツトリ(鶏)、シャガ(白髪)のように拗音化現象が認められる。

方言の中にはタモウレ(給ハレ:下さい)、オジャル(オイデヤル:来る)、ゴキ(御器:食物を盛る椀)、ボックリ(木履:足駄)、マナコ(眼)、ヨ(イワ:魚)、ハラメ(妊婦)、トンメテ(ツトメテ:朝)、ヒョウラ(ヒャウラウ:兵糧、昼食)、カナシ(愛シ:可愛い)、アサケ、ユフケのケ(筍:食物)、ケダイ(懈怠:怠惰)、ホオードノ(ハワ殿:母)、ツブリヨ(ツブリ、ツムリ:頭)、ヨンバリ(ユバリ、イバリ:尿、小便)のように古語に由来する語が残っている。

昔は水道施設が無く天水を用いた。屋根の水を樋で大きな水槽に溜めていた。ゴミやボウフラ、トカゲが入り、かなり不衛生な状態だった。雨量は多いのだが、火山性土壌のため水はけが良く、生活用水には苦労した。

水が少ないため、昭和30年代には風呂に入るのは週に1度が村の8%、ひと月に1度が半数、中には2カ月以上も入らない者もいた。昭和50年代まで雨水を生活用水にしており、今でも多くの家に6畳程のコンクリート製の水槽が残っている。

昭和34年の調査では回虫保有者は小学生58%、中学生27%であり、駆虫薬の使用により一度に40匹以上の回虫が回収された。

村には月経を迎えた少女が生活する他火小屋(タビコヤ)があり、年長の子より裁縫、礼儀、調理、機織り、育児など家事万端を習う慣習があった。

住民の姓は広江、佐々木、奥山、浅沼、菊池の5姓で大半を占めている。人々は個人名で呼び合うので、住民の繋がりにはよく掴めない。互いに正夫、繁雄、君江などと呼んでいる。

車に乗せてもらった人に、私の宿の主人の名を訊いたら「ウーン、あれは広江だったかな、奥山だったかな」と暫く考えていた。それ程に苗字を使うことはないらしい。

島の産業として炭焼きがあった。豊富にある木を使い、窯を造って木炭を焼く。大正4、5年には1万3千俵を生産したが、高値のつく冬は海が荒れて島から出せず、値の下る春から夏にしか搬出できなかった。牛の飼育も現金を得る手段であったが、これも船に乗せるのに苦労した。

羊齒科のオオタニワタリも良い収入源となったが、乱獲の

ため数が減ったので、かなり前から持ち出しが制限されている。

現在窪地の池之沢でサツマ芋が栽培されており、青酎と呼ぶ焼酎が作られている。何軒かの家が青酎を作っているが、それぞれに度数と味が異っている。

サツマ芋は享保8年(1723)八丈に初めてもたらされたが栽培法が解らず広がらなかった。文化8年(1811)菊池秀右衛門と太田繁右衛門がアカサツマ芋を、文政5年(1822)秀右衛門の伴の小源太がホンス種の芋を植えて栽培が広まった。

青ヶ島には弘化元年(1844)に八丈より伝わった。八丈では文化4年(1807)以来飢饉が続き、7、8年の餓死者は400人余りとなった。青ヶ島も同様の状態であったが、サツマ芋の普及により飢饉による飢えは少なくなった。

今日生活環境は一変しているが、戦後暫らくはかなり劣悪であった。昭和30年より蠅取競争を実施したが、生徒が10日間で27万匹の蠅を集めた。翌年は発生源に薬を撒いたために14万匹に減らすことができた。

村の中央にある学校の下を降りていくと篠竹の原が広がっている。黒牛の牧場になっており、その先は海に落ち込む崖となる。

島の北端に神子浦がある。上から覗くと100 m程の垂直の崖で、崩れた岩に白波が立っていた。

藪の中に急な小路がある。何だろうと降りてみると崖に沿って右左に折れながら踏み跡路が下に続いている。途中の岩陰に倒れた鳥居と小さな祠があった。幣が数本奉られている。路は未だ続краしいが、崩れそうで危ないので、祠から引き返した。

以前はこの神子浦が唯一の海岸に降りる場所であり、船はここから出入りしていた。船はその都度岩の上に引き上げて、波に攫われるのを防がなければならない。浜とは呼べない大岩の転がった場所なので、船の乗り降りにはかなり苦労したことだろう。

島は火山島なので水はけがよく、水に苦労している。カルデラの中は大半が樹木が茂る森となり、処々に畠がつくられ、観葉植物やサツマ芋が栽培されている。火山礫の土壌と風が強いので、余り作物にはむいていない。

木々の間を歩いていると、両側に長さ1 mを越す幅の広い葉を付けたオオタニワタリが群生している。薄緑の葉を広げ、まるで大鳥が飛んで行くように見えた。

椿は未だ木が小さくて実をつけていない。林の一部には200年を越す杉の大木が繁る処があった。

噴出する地熱蒸気を利用して調理する蒸気釜がある。サツマイモや肉、野菜、卵を入れておくと40～50分で蒸し上げる。窯の近くにサウナがある。蒸気は60度程で少し低

いが、長く入っていると体の芯から温まってくる。村から少し遠いのが難点ではあるが、何回か入りに行き、蒸し料理と冷えたビールを愉しんだ。

景泰古城・黄河石林 - 蘭州近況(2016年6月)

大川 豊(14期)

2016年春季

早いもので今学期も無事終了しました。4年生は6月末に卒業していきました。3年生はまだ期末試験の最中ですが、7月の半ばに榆中から蘭州のキャンパスへ引っ越していきます。蘭州大学では4年生が蘭州キャンパスで、1年生から3年生までは榆中キャンパスで学びます。学生たちに田舎のキャンパスから都会のキャンパスへ移るので楽しいだろうと水を向けると、多くの学生が移りたくないと答えてきます。いくら都会生活の刺激があっても、学生寮が古くて狭く、空気も悪いので、榆中の方がよいそうです。

こちら昨日で採点が終わり、今期の仕事は完了です。今期は高校時代の友人が蘭州へたずねてくれるので、一緒に付近を旅行してから帰京する予定です。

景泰古城を探る

甘粛省の旅行雑誌を見ていると古城の写真が載っていました。調べてみると蘭州の中川飛行場の近くの景泰県にあることが分かりました。少し前の話になりますが、5月の初旬に同僚のN先生と学生たちと行ってきました。蘭州から景泰県までバスで2時間ほどでした。古城はそこからバスで30分のほどのところにありますが、一日数本しかバス便がないため、タクシーと交渉して100元で行ってもらいました。

古城は河西回廊の起点となる烏鞘嶺の長く伸びた山裾にありました。17世紀の初め明の軍事基地として造られ、



古城全景 西側

その頃には2,000名近くの兵士が駐屯していたようですが、現在では十数家族の農民が生活しているだけのようです。まだ観光地化されておらず、入場料も取られずに城内に入ることができました。城内を取り巻く城壁は煉瓦で補強もされず、付近の土をもりあげたままの土塼でした。高さは12m、古城を囲む土塼の周囲は1.7kmだそうです。

古城の中を歩いてみましたが、明の時代の軍事基地の面影はさすがにありません。城の中央には仏教と道教の寺院跡とりっぱな小学校の跡が残っていました。数十年前は何百家族が暮らす大きな村だったので、現在ではわずかな戸数しか残っていないようです。昔の朽ち果てた手



城内の小学校



古城の農家の羊たち



場外から見た正門

つかずの城内を歩くと、西方や北方民族への前線基地だった往時の様子がうかがえるようで、楽しめました。

黄河石林に遊ぶ



黄河を羊の筏で下る

古城のある景泰県の東側、黄河が流れる河川沿いに黄河石林という観光名所があります。黄河の浸食で黄土が変形し、奇岩怪石が林立しているところです。これまで行く機会がありませんでしたが、同じ景泰県にあるので、翌日出かけてみました。

黄河石林の観光地の入り口は黄土高原の丘陵の上にあ



前方の岩の間が石林の入り口



石林の入り口



ロバの馬車でのんびり歩む

りました。ここから入場料を払って、観光地の専用車に乗り換えて、石林まで下ります。観光車に乗ると、石林のはるか上流の黄河の河岸で降ろされました。何とそこは黄河筏の埠頭で、そこから筏に乗って石林へ向かうそうです。仕方なく筏代30元を払って、黄河筏に乗りました。筏は羊の腸を膨らませた浮き輪を数個つないだもので船頭を含めて四、五人ほどが乗れる小さなものです。のんびりと20分ほど黄河を下って石林の入口へ向かいました。

石林の入り口ではロバの馬車がたくさん観光客を待っていました。どこまで行くのか分からなかったので、ロバには乗らずに歩き始めました。周囲の奇岩をながめながら溪谷を歩くことになります。しばらく歩くと瓦礫の上を歩いたので疲れてきました。すると道の隅でバギー・カーの貸し出しをしていましたので、これを借りてバギーで走りました。1、2km進むとロープウェイ乗り場に着きました。ロープウェイで奇岩の上に登り、周囲の景観を楽しもうという趣向です。頂上からはすどくとがった岩山が何層にも辺りを取り巻いていて、まるで岩盤の砂漠でした。中国では石林と

いう観光地がよくあります。昆明の石林ではサボテンのような奇石の林でしたが、黄河石林は岩山の石林でした。



黄河石林の谷間を歩く



石林の終着駅、ここからロープウェイで



岩山が何層も続く

一期同期会報告

小島恒雄（1期）

5月17日(火)大船の伊太利レストランAGIOに集合、昨年に引続き、親睦を深めた。

開会に先立ち、この一年間に逝去された、澤田壽夫・島森 信寿両氏に黙祷。

参加者20名。一昨年26名、昨年23名と漸減傾向は否めない。

望月新校長は超多忙の為、「八十翁連」・傘寿連との初顔合わせは実現しなかった。

司会役、徳永君は「新校舎建築募金委員長」でもあり、彼より建築状況、募金の現状や協力依頼等説明があった。その後、各人五分程度の持時間で現況説明が行われた。

粗衣・粗食の時代を耐え抜いて来た我々戦中派は体的には強靱なものを持っていると自負している。今後は健康寿命も頭に置きつつ、もうひと踏ん張りしなきゃとの感じであった。

来年の再開を約して散会した。



一期同期会(2016年5月17日)

5期同期会

天野 正（5期）

平成28年度5期同期会の報告をします。昨年より同期の諸兄に報告者になってもらっています。今回は、福井県坂井市丸岡町「丸岡文化財団」が募集している「日本一短い手紙2015年一筆啓上賞」に大賞1編と佳作2編の入賞を果たした鈴木邦義くんです。

平成28年度5期同期会(4月16日)

5期生全員が喜寿組となって初めての同期会が4月16日、今年も服部君が手配してくれた横浜銀行「横浜シティクラブ」で開かれた。受付担当は赤井、中村両幹事。聞けば「出席者が近年40数名で推移していたが、残念ながら今日は37名」とのこと。

やがて定刻の2時となり、栗原幹事の司会で開会。

初めに天野会長から挨拶とこの一年間の動きの紹介があった。

・今回74名に案内を送り、42名から出席の返事があったが、昨日・本日で5名のキャンセルがあり、結局案内を送った人数の5割、37名出席となった。

- ・阿部先生が1月に、赤倉君が2月に逝去されたので、5期会として弔意の手紙と花籠をお送りした。
- ・同窓会の役員を次の通り変更する旨、事務局に届けた。全員が喜寿を過ぎたからである。

期委員4名(赤井、天野、和泉沢、栗原)⇒2名(赤井、中村)

常任委員1名(中村)⇒辞任

なお、5期同期会幹事(赤井、天野、和泉沢、栗原、中村)及びアドバイザー(川西、高井、渡辺(慎))は従来通り。

・戦後70年に因み、テーマ「終戦の時、どこでどうしていた」の特集

をしたところ25編が寄せられ、「THE 5期」に掲載して昨年末に配布。好評で多くの感想が届いたが、大変な作業だったので、当面「THE 5期」での特集は控えることにする。しかし、今後とも学生時代、社会人時代、その後などを含め、何なりと投稿してほしい。

・後程中村幹事から提案するが、来年の同期会の前に栄光の新校舎が落成(H29.3)するので、次回は新校舎を見学し

た後、大船辺りで同期会を開いてはどうだろうか。

続いて、仙台から駆けつけてくれた綱島君が「熊本で地震が起き、支援されてきた東北が支援する側となった」と挨拶。彼の発声で乾杯し懇親会がスタート。

いつものことながら、卒業後半世紀以上経ち、歳なりに容貌は変わったものの当時の面影が消えることなく、会場のあちこちで三々五々歓談する光景は、まるで休み時間に校庭で談笑していたような雰囲気です。微笑ましかったのだが…今回はそれもつかの間、シテイクラブの方が部屋の隅にL字型に置いてくれた椅子30脚ほどが忽ち満席となり、立食パーティ形式にもかかわらず立っているのは僅か10名足らずの状態。これを見て「やはり喜寿組」と痛感した。

一段落したところで、建築学が専門の佐藤正彦君が3月に訪れたインドの「少数民族の住居」について、棟居洋君が彼の訳書「ルターのリンゴの木ー格言の起源と戦後ドイツ人のメンタリティ」関連の興味深い見解をそれぞれ披露してくれたのだが、話に気付かずに続けられた会場内の私語に遮られて、殆ど聴き取れなかったのは残念だった。やはり椅子の配置に難があったと思われる。なお、歓談の内容は多岐にわたったのだろうが、我々5期生にとって恩師中の恩師ともいべき金子先生、阿部先生の姿を「もう見ることがないんだなあ」と寂しそうに話す声も聞かれた。

かつては、社内会議が2時間も続くと辟易した我々だが、このように楽しい仲間とのひとときの2時間は過ぎるのが早く、恒例の合唱の時間に。今回は「千里の波濤」「Where Hillocks Shine」「Pirates' Song」「Eiko High Forever」

の4連発、指揮はセミプロの田中君。締めは完全復調した今井君の蛮声に唱和した「フレイフレイ5期」のエール。

最後に中村幹事が「次回の同期会は新校舎見学を兼ねて開催する件」を諮り、賛成多数で決定。また、「次回は立食ではなくテーブル席にすることを幹事会で検討する」との話があり、閉会。集合写真に収まり、再会を約して散会したのだが、見渡すと、昔のように二次会・三次会へと繰り出す猛者は皆無で、足早に家路を目指す姿に「寄る年波」の感をあらたにした。

さて、初めに記した通り、今回は出席者が40名を切って37名となり、今後とも減少傾向を辿ることも予想されるので、都合が悪い時は次のような「顔見せ欠席」はいかがだろうか。2月に開かれた「スカパイ会」(年2回開催の横須賀版5期同期会・出席12~13名)でのこと。事前に「欠席」との連絡があった八並君が会場に姿を見せて皆と言葉を交わした後、「体調が思わしくないの」と挨拶して、会が始まる前に退席したケース。5期会でも体調不良などの場合は無理をせずに「欠席」とした上で、可能なら彼のようにほんの短い時間でも「顔見せ」して旧交を温めたいと思う。

「追記」

・Alumni No.82に、各期(1~55期)の活動状況が載っており、「会合頻度年1回」は5期を含めて僅か「7」、「冊子発行」は何と我が5期のみ、とあり、5期会の充実ぶりが際立っている。これは「偏にレールを敷いてくれたミクロンこと渡辺慎二君と歴代の幹事諸兄の熱意の賜」と感謝する次第。ありがとう。



5期同期会(2016年4月16日)

・今回ドタキャン5名で、当日の収支に影響があった。ドタキャンの場合の会費の取り扱いを決めなくてはならない時期なのかもしれない。

(以上 鈴木邦義君の報告)

何年も幹事をやっていると、同期会の運営も慣れっこになってしまうようです。新鮮な目での報告になりました。鈴木くんに感謝！

今は亡き阿部先生は『諸君と10歳ちがう先輩としてひと言いえば、70歳はまだまだ大丈夫、80歳は全く違う。ムリはしない…』(平成24年の同期会で)と言われました。喜寿一区切りという考え方もあるでしょうが、傘寿一区切りということに切り替えて、「同期会のあり方」について同期生各位の率直な意見を集めて次回以降に反映させてゆきたいものと思っていますところ。

(平成28年度同期会報告)

幹事会からの追伸(2016-7-18) :

2016-7-14 幹事会を開いて、種々意見交換をしました。その中で、来年の同期会をどうしようか…ということになりました。結論として『同期会での提案(母校の見学の後大船通りという計画)を変更して、「来年も従来と同じようにするのがよかろう」ということになりました。同窓会が母校新校舎の見学会を計画するので、希望者は同窓会の見学会に参加

してもらったこととした次第です。

来年の同期会は『平成29年(2017年)4月1日(土) 14:00~16:00』ということになりますので、5期生各位には今からご予約くださるようお願いいたします。

2016年8期同期会報告(2016年8月8日)

田辺 宏(8期)

8期は今年度中に全員が「後期高齢者」となる。物忘れがひどくなったので、会の過去を振り返ってみたい。

10年前('06年)の吉田裕美君の報文によれば、「八期会が3年ぶりに開催され、参加者57名。場所は関内駅近くの社員クラブ。司会は目黒君」とある。この年までは、幹事持ち回りで不定期の開催だったが、以後毎年、一昨年まで、この関内で9年間続けて開催された。建て替えの為此の建物が使えなくなったので、昨年横浜駅西口近くにある横浜銀行施設の横浜シティークラブで開催しており、当銀行OBの山野井君に尽力願っている。

司会役は、'06年から3回目黒君だったが、'08年急逝してから以降は高井君にやってもらっており、今年で連続8回目となる。受付は、毎年矢口君にご苦労頂いている。



8期同期会(2016年8月8日)

という訳で、毎年同じ幹事で開催しているが、今年も54名と多き仲間が集まった。'06年以降、14名も亡くなっていることを考えると、出席率は高まっている。

さて、当日の報告へ移ろう。

開宴に当たり、今年亡くなった磯部君他27名の仲間と、熊野先生はじめ亡き恩師のご冥福を祈って黙祷。早速、天野君の発声で乾杯、いわく「後期高齢者の皆さん、一年間頑張ろう！」



8期同期会(2016年8月8日)

続いて小生より欠席者の消息等をコメント後、同窓会常任委員の河相君から「新校舎建設への寄付及び同窓会費納入状況」について、詳細に数字を用いての説明があったが、どの程度理解されたか定かでない。

アルコールを飲み始めれば話の輪が拡がり、騒音と笑顔の渦、暫く歓談が続く。ややあって、司会が高梨君に「タバコ」の功罪について説明するよう指名。彼曰く「同期が28名亡くなったがタバコを吸っていたのは、1名だけ」と。次に、「グルメの教養」という本を出した宇多君(筆名小町文雄)にPRを求めた。曰く「旨い物を食ってやろう」という本とか。彼は、栄光時代は編集部で活躍。既に13冊ほど出版している。

次は活発なジャズ演奏活動中の高橋三雄君が指名され、好評発売中のCDをPR。すかさず司会者が応援。すぐ高原君が購入している姿がカメラに収まっている。司会者が調子に乗ってきて、アマバンドでドラムを叩いている神田君を紹介。

ややあって、遅れて



27期ソフトボール大会(2016年5月29日)

きた弁護士の浜田君に話を促した所、今迄に経験したことのない静寂が訪れ、多くが「演説」に聞き入った。聞えないのはマイクのせいでは無い事が証明された。内容は興味深かったが割愛する。たまたま石井龍雄君が、関連する話をふた言報告。続いて、4回目の任地の広島から来た作道君が「教会の幼稚園には300人もの子どもが居る」事など話す。

定刻15分前になったので、何十年も変わらない我らの指揮者である石川君の音頭で、「恒例の3曲」を声高に歌い、絆を深めた。大阪から毎年の斉藤君、6年ぶりの梶浦君、そして、車椅子での吉田君他皆さんありがとう御座いました。

来年も8月8日(火)、ここで開催するので、又皆さん元気で会いましょう。

恒例 27期ソフトボール大会 初めて校外グラウンドで開催!!

幹事団 松村武人 (27期)

20年余り前から同期の幅広い支持を得て毎年続けられてきた27期ソフトボール大会は、今や30名近い同期や恩師が集う我が期の一大イベントである。それが今年はややく途切れそうになった。新校舎建設のため、OBを含めた外部者のグラウンド使用が不可となったからである。昨年末の同期忘年会でそれを聞いた我々幹事団(硬庭部・軟庭部OB)は頭を抱えた。季節の良い5月の週末に校外で借りられるグラウンドのあてなど全くない。だめならいっそ旅行やハイキングに替えるかという声もあがる中、ともかくトライしてみようと有志が手分けして公営グラウンドの抽選申込を繰り返すうちに、渋谷君が鎌倉市深沢のグラウンドに見事当選。為せば成る。求めよ、されば与えられん。やるべきことを、やるべきときに、きちんとやれ(でしたっけ?)。こうして5月29日(日)、同期各位や飯野先生のご協力をいただいて、今年もなんと



試合後の懇親会

か幹事団の責任を果たすことができた。

例年、海外赴任中の同期の中にはこの大会に参加するためにわざわざ東京への出張用務を作って帰国し、家族にまであきれられる者が出るほどだが、今年はシカゴ在住の耳鼻科医師の松岡君がこの大会参加のために久しぶりに帰国。時差にもかかわらず元気なプレーを披露した。

毎年、この大会のメインイベントは最終の第3試合として行われる、「元野球部チーム」vs「元野球部以外チーム」の対決である。過去2年間は元野球部チームが苦杯を舐め、元野球部以外の口の悪い連中からおおいに見くびられる有様であったが、今年は大乱戦を6回逆転サヨナラで制し、24対23というソフトボールらしからぬスコアで3連敗を免れた。なお、殊勲のサヨナラ・ヒットを打ったのは、人数調整のために元軟庭部ながら元野球部チームに組み入れられていた車田君であった。MVPは今年も驚異的なパワーを誇示した中村中君、また飯野先生の3戦全勝、うち2試合で完投勝利という活躍も特筆すべきものであった。

3試合を通してみれば、外野4人制というローカル・ルールにもかかわらず合計得点数がなんと100という乱戦続きであった。各外野手とも打球に対する目測誤りや反応の遅れが昨年以上に進んだことに加え、目の前に来たボールしか追いかけてやらない選手が目立ち、内野手にしてもせっかく華麗にゴロをさばきながら一塁への送球が届かないといった残念なケースもあって、得点ばかりが景気良く積み上がる結果となった。一方、昔よりも反応が鈍くなり瞬発力も衰えた分、例年のような骨折、肉離れ、アキレス腱損傷もなく無事に終わることができたのは何よりであった。

試合終了後は大船駅まで戻って、二手に分かれて銭湯

で汗を流した後、居酒屋「はなの舞」で反省会。懇親会から合流した同期も含め各自が近況を披露し合い、堀内君からはこれも27期の行事として定着しつつある横浜スタジアム観戦イベントについて告知。最後に飯野先生から、「来年はおそらく新校舎のグラウンドで開催できるのではないか」との言葉をいただき、全員でEiko High Foreverを合唱してお開きとなった。

支部等の活動

物理部OB会総会報告(2016年3月27日)

安河内健志朗 (62期)

2015年度の物理部OB会総会は、2016年3月27日に例年通りアロイジオ会館で開催されました。

日曜日かつ復活祭の日の開催でしたが、11期から64期まで、総勢35名の参加者が集まりました。特に、今回も若い世代のOBが多く参加していました。

乾杯のあと、食事をとりながら、OB同士で校舎のことなどに思いを馳せながら、世代を超えた交流をすることができました。盛り上がってきたところで、それぞれが近況報告を兼ねた自己紹介、栄光時代の思い出などを話しました。物理部OBは理系分野に限らず、多種多様な業界や学部に進んでおり、改めて栄光物理部の自由さを実感しました。

食事がすんだところで、次期総会議長決め等の議題について話し合いました。

決算については以下のように報告します。

収入	会費	2,000×35	70,000
	利息		16
	計		70,016
支出	会場費		0
	通信費(ハガキ代)		20,800
	銀行手数料		324



物理部OB会(2016年3月27日)

食事代	27,996
菓子代	4,996
飲み物代	3,117
計	57,233

収支(物理部OB会口座へ入金)	
	12,783

議案については、以下のように決定しました。

- ・OB会会長は21期 古谷哲夫氏が留任。
- ・OB会副会長は39期 斎藤逸郎氏が留任。
- ・次年度の総会議長に63期秋元慎弥を選任。
- ・通信費削減のためにはがき以外の方法で出欠確認する方法がないか→現状維持、来年度に引き継ぐことを決定

今回参加できなかったOBの方も、次回は是非ご参加ください。

栄光学園横須賀OB会春の会

上原 真 (31期)

平成28年4月16日土曜日午後5時より栄光学園横須賀OB会春の会が横須賀モアーズの「旬泉坊」にて開催されました。窪田信之氏(12期)の司会進行で、名倉忠昭氏(2期)の乾杯、会長である上原真(31期)の挨拶で宴会が始まりました。

飲食している間に、衆議院議員の浅尾慶一郎氏(31期)の飛び入り参加もあり、場は盛り上がりました。一時間ほど飲食した後、参加者(文末に参加者を掲載)全員から近況



横須賀OB会(2016年4月16日)

の話がありました。予定の二時間は思いの外はやく過ぎ、「千里の波濤」、「Pirates' Song」などを唄い集合写真を撮影し、総勢14名の会がお開きになりました。

参加者氏名(敬称略):2期名倉忠昭、山口悟、3期丸山晁巨、10期岸洋一、12期窪田信之、13期太田良浩之、谷繁信、15期角尾二三男、16期波多康治、楊箸明朗、22期加藤元章、26期呉東正彦、31期浅尾慶一郎、上原真

茅ヶ崎栄光同窓会 報告

島崎裕之 (26期)

2016年6月26日(日)12:00～、茅ヶ崎駅南口からほど近いレストラン『アップル』にて、標記総会を開催した。出席者は会長以下、計7名。

山口洋一郎会長(13期)の挨拶に始まり、報告事項は、2015年度活動報告・決算報告、今年度活動計画・予算案。先期はヒュッテ訪問を予定していたが、実施には至らず、総

会・新年会のみ活動に留まった。しかしながら『仲間を増やす』という目標を一歩ずつ進めることができた。今年度は、定例の新年会等の他、BBQを10月9日(日)に茅ヶ崎里山公園にて実施すること、また新年会の日取りも1月22日(日)に決定、また栄光ヒュッテのツアーの実施も決定した。会の活動の柱である『会として地元をいっそう知り、かつ地域に貢献する』との方針も再確認された。

その他同窓会本部より、活動サポート部長の島崎裕之(26期)より、定期総会(同窓会会則改訂等)報告、今後のイベント計画(オール栄光ゴルフコンペ、OBフォーラム、70周年記念コンサート等)、66期加藤旭君逝去の件、6月24日の故熊野忠敬先生のお通夜について報告があった。

続いて酒井伸雄氏(2期)による乾杯より、懇親会が始まる。現職教員の壱岐太氏(32期)より、新校舎建築の進捗状況を中心に、学園の近況などの話があった。

おしゃれな料理とともに会は和やかにすすみ、山口会長より「同窓会本部の仕事も大変だなあ」と労いのお言葉をください。島崎は「菱沼会長の『血の通った同窓会』というモットーに賛同した」と返答。さらに「血が通うとはどういうことだ?」と聞かれ、「これ!イエスの血です。」と赤ワインをぐいっと。その後加藤旭君のセカンドアルバム『光のみずらみ』の販売も行われ、未購入の参加者全員にご購入いただいた。



茅ヶ崎栄光会(2016年6月26日)

静岡栄光会 報告

齋藤直治 (22期)

去る8月27日(土)静岡栄光会が静岡市の浮月楼で開催されました。今回は3年半ぶりの開催ということで、本会を支えてくださっている9期の山屋長英様、11期の露無慎二様に御指導を受けながら、先ず母校の同窓会事務局に登録されている静岡県在住者の住所データを改めていただくこと



静岡栄光会(2016年8月27日)

から始めました。1期から57期まで51名の方に案内を差し上げたところ、14名の参加となりました。(9期3名、11期、22期各2名、24期25期26期45期47期51期54期各1名)うち6名の方が初参加でした。既に静岡県に居を構えられて久しい方から今春転勤で本県に見えた方まで新鮮かつ多彩で、一部親子ほどの年齢の幅がある顔ぶれではあるものの、旧交を暖めることができました。少人数ではありましたが、お一人お一人から静岡県に縁があったいきさつから近況報告までうかがうことができ、実に楽しいひと時でした。昨年還暦を迎えている22期を境に、退職されてもお役時代の仕事の延長上で活躍されていたり、地域に奉仕されていたりする方々が7名、現在県内の要職(司祭、裁判所、大学、会社)に就かれ、正に第一線で御活躍の方が7名いらっしゃいました。

花が咲いたのは、やはりフォス先生やウルフ先生の思い出(同窓会でも厳しい教えを賜ったこと)、シュトルテ先生の山岳部指導、授業のため対外試合に出られなかった部活の話など、40期以上になるとビッグ3(スリー)も伝説の人になってしまっていることなど…話題は多岐にわたりました。同窓生の方々の仕事にかかわる姿勢にはMan for othersの姿勢が強く貫かれ、栄光精神を脈々と受け継いでいるパワーを改めていただきました。

最後に、22期の同窓会ではお開きを前に必ず歌われるEiko High Foreverを皆でと思いましたが、40期以上は1、2回しか聞いたことがなく(LSTは今いずこ?)、現在の校歌は田浦世代は知らず、『どうしたもんじゃろなあ』と思いましたが、結局「千里の波濤」を含めて全三曲全てを一番ずつ歌って再会を期し、本会のお開きとなりました。

引き続き二次会にも8名の参加があり、かつて本会に多大なる御尽力をいただいた中村順英さん(16期)を偲んで彼の行きつけだった店に行き、彼のボトルを前に更なる杯を重ねました。本県に関係する卒業生の皆様、今後とも御要望、御連絡等があれば是非齋藤までお寄せください。よろしくお願ひします。

(今回の会を開催するにあたっては、学園事務局の前山

様から御指導御支援いただき誠にありがとうございました。
新たに県内在住者の情報も得られました。)

〔予告〕バドミントン部OB会総会のご案内 2016年11月26日(土)開催

樋口祐介 (57期)

毎年恒例の栄光学園バドミントン部OB会を、下記の通り開催致します。同期の方などとお誘い合わせの上、是非ご出席下さいますようご案内致します。

記

日時:2016年11月26日(土) 午後6:00～
会場:横浜中華街 萬珍樓 本店 (従来どおり)
<http://www.manchinro.co.jp/>

(045-681-4004)

会費:8,000円 (学生:5,000円、64期:4,000円)

会場準備の都合上、10月31日(月)までに出席をお知らせ下さい。

ご返答は、樋口のメールアドレス<mybmw22@gmail.com> にお願ひ申し上げます。(@ は半角の @ に置き換えてください)

〔予告〕第15回バドミントン部 OBゴルフコンペのご案内 2016年11月20日(日)開催

下田精治 (25期)

第15回 栄光学園バドミントン部OBコンペ」を下記の通り開催します。参加される方は

下田<s.shimoda@jp.fujitsu.com>まで返信下さい。
メールをいただいた方には、下田より「了解」のメールを返信しますので、数日しても返信がない場合は、下田の携帯(090-4001-5255)にご連絡下さい。
なお、先着3組12人になり次第募集を終了しますので、早めの申し込みをお願いいたします。

記

日時:11月20日(日)9時48分～3組
南コーススタート

・場所:万木城カントリークラブ

<http://www.yc21.co.jp/mangi-jo/index.php>

・集合:9時35分 マスター室前

クラブバス(最終は、茂原駅発:8時45分→ゴルフ場着:9時15分)を利用される場合は、事前予約なので、その旨下田に伝えて下さい。

なお、総会・ゴルフコンペにおいては、本年5月20日に逝去された少年音楽家 加藤旭君(66期高2・バドミントン部)のセカンドアルバム『光のみずうみ』を1枚2,000円で販売いたします。

売上金の一部は、難病に苦しむ子供たちのために寄付されます。

歴史・文学散歩

2016年5月26日(木) 芭蕉と歩く大塚・目白台 (芸術浪漫コース)

石賀忠勝 (10期)

今回の歴史文学散歩は、JR人身事故による首都圏ダイヤの乱れで集合が大幅に遅れた。護国寺境内で待つこと30分を経て17名の参加を確認、いつもの簡単な自己紹介とコース説明から始まった。

護国寺は綱吉将軍が母たる桂昌院の願いを入れて建てた壮大な祈願寺、境内には不老門や観音堂、月光殿や多宝塔、音羽富士(富士塚)など見どころ多く、かつ大隈重信ほか有名人多数の立派な墓が並ぶことでも知られている。

次いで日本女子大・成瀬記念館を訪問。日本初の女子高等教育施設として日本女子大を創設した成瀬仁蔵氏の足跡を写真と資料で辿る施設である。牧師として、教育者として、社会事業家として多面的に活動した明治時代の巨人の一人、あいにくあさ(広岡浅子氏)ほどには知られていないが。



新江戸川公園から和敬塾をのぞむ

新江戸川公園＝旧細川邸跡はみごとな公園であった。

肥後熊本藩54万石の江戸の下屋敷の地を都が買い上げ(のちに文京区管理)、手入れの行き届いた快適な公園にした。

元学問所の松聲閣から眺める池泉回遊式庭園は大名屋敷の庭らしくゆったりとしていて、樹木うっそうの周囲の小山とその上に広がる広い空が心地よい。その庭に下りてお喋りをしながら昼食をとった。



松聲閣の庭園にて集合写真

関口芭蕉庵の庭で芭蕉真筆を写し取った「古池や 蛙飛び込む 水の音」の碑を眺め、予定の永青文庫と講談社野間記念館は省略して次に向かった。

東京カテドラル聖マリア大聖堂では係のご好意で正面扉を開けて頂き、そこから入って赤い大きな司教座(カテドラ)を眺め、暫く静かな時間を過ごした。

佐藤春夫旧居跡地(建屋は既がない)を経て鳩山会館へ。ここも人気の場所で、この時期にはバラ好きが集まる。150株ほどの代表的なバラが並んで見ごとだ。泰山木の大きな白い花がちょうど盛り、幾つも咲いて芳香を漂わせていた。



林泉寺「しばられ地蔵」

最後は「しばられ地蔵」=林泉寺(寺は再建工事中)、名前を知る人は多いが実物を見たものは少なからう。

信仰者が願をかけて地蔵を麻縄で縛り、願が成就したら縄をほどいてお礼をするという。地蔵は頭部を残してすっかり縄で覆われていて願かけの人の数がよほど多いことを告げていた。そして解散。

この日曇り空からしばし日が射したが暑いまではゆかず、文学歴史散歩に快適な一日を過ごすことができた。世話人の皆さまに感謝いたします。

● 訃報(2016年3月20日以降判明分)

先生

小池悟郎氏(臨海教室元職員)2016年4月5日

熊野忠敬先生(保健体育)2016年6月19日

卒業生

坂本直樹氏	(23期)	2013年9月28日
神作守男氏	(15期)	2015年11月14日
大江隆男氏	(17期)	2016年1月12日
岡本宗雄氏	(4期)	2016年1月22日
磯部尚昭氏	(8期)	2016年2月29日
澤田壽夫氏	(1期)	2016年4月1日
神田憲二氏	(15期)	2016年7月18日
竹原尚治氏	(4期)	2016年8月3日
見山敏也氏	(20期)	2016年8月4日
茂木裕之氏	(2期)	2016年8月23日
岡本敬一氏	(12期)	2016年8月25日
鈴木勝也氏	(5期)	2016年8月26日
大野道雄氏	(29期)	2016年8月26日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

● 次号(第87号)2017年4月発行予定

● 投稿歓迎

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度+写真1枚。同窓会事務局宛てメールまたは封書でお送りください。

メールアドレス: admin@eikoalumni.org

住所:(本号第1頁にあります)。

● 編集後記

同窓会の会合に出席するため学園を訪れるたびに新校舎建築工事の進み具合が気になり、遠目に拝見させていただくことが多い。外から眺めているだけでも汗をかく季節はどうやら過ぎ去り、現場で働く作業員の方も少しはほっとされていることだろう。それにしてもコンクリートに覆われて熱がこもるマンションやオフィスに較べて、木材の地肌が現れるこの校舎のデザインは、内部で作業する際の体感温度が違うのではないだろうか。完成が待ち遠しい。といっても、新校舎を日々利用する立場ではないのだが。